



CHAPTER

1

基本的なシステム コマンド

この章では、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチで使用可能な基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。これらのコマンドを使用して、スイッチをナビゲートおよび制御できます。

banner motd

ユーザが Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチにログインしたときに表示される Message-of-The-Day (MOTD) バナーを設定するには、**banner motd** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner motd delimiter message delimiter

no banner motd

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタ文字。メッセージの最初と最後を示します。メッセージ内では使用しないでください。デリミタとして " および % は使用しないでください。空白文字は機能しません。
<i>message</i>	メッセージ テキスト。テキストは英数字で入力し、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができます。デリミタとして選択した文字は含めないでください。テキストは、最大 80 文字の長さで、40 行以内で指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの MOTD 文字列は「Nexus 5000 Switch」です。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

複数行の MOTD バナーを作成する場合は、デリミタを入力する前に Enter を押して改行します。40 行以内でテキストを入力できます。

例

次に、1 行の MOTD バナーを設定する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Unauthorized access to this device is prohibited!#
```

次に、複数行の MOTD バナーを設定する例を示します。

```
switch(config)# banner motd #Welcome Authorized Users Unauthorized access prohibited!#
```

次に、MOTD バナーをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch(config)# no banner motd
```

関連コマンド

コマンド	説明
show banner motd	MOTD バナーを表示します。

boot

Cisco Nexus 5000 シリーズ キックスタートまたはシステム ソフトウェア イメージのブート変数を設定するには、**boot** コマンドを使用します。ブート変数をクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot {kickstart | system} [bootflash:] [//server/] [directory] filename
```

```
no boot {kickstart | system}
```

構文の説明

kickstart	キックスタート イメージを設定します。
system	システム イメージを設定します。
bootflash:	(任意) ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。
//server/	(任意) サーバの名前。有効な値は、///、// module-1/ 、// sup-1/ 、// sup-active/ または // sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
directory	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
filename	キックスタート イメージまたはシステム イメージのファイル名を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) `bootflash://server/directory/filename` スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、起動時にブート変数を使用してイメージをロードします。リロードする前に、スイッチに正しいイメージをコピーする必要があります。

例

次に、システムのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot system bootflash:n5000.bin
```

次に、キックスタートのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot kickstart bootflash:n5000-kickstart.bin
```

次に、システムのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot system
```

次に、キックスタートのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot kickstart
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy	ファイルをコピーします。
show boot	ブート変数のコンフィギュレーション情報を表示します。

cd

デバイス ファイル システムの現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:] [//server/] directory
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	変更先ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

例

次に、現在のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、別のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd volatile:
```

関連コマンド

コマンド	説明
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

clear cli history

コマンドの履歴をクリアするには、**clear cli history** コマンドを使用します。

clear cli history

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

例

次に、コマンドの履歴をクリアする例を示します。

```
switch# clear cli history
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cli history	コマンドの履歴を表示します。

clear cores

コア ファイルをクリアするには、**clear cores** コマンドを使用します。

clear cores

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コア ファイルに関する情報を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

例

次に、コア ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear cores
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system cores	コア ファイル名を表示します。
system cores	コア ファイル名を設定します。

clear debug-logfile

デバッグ ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

clear debug-logfile *filename*

構文の説明

filename クリアするデバッグ ログ ファイルの名前。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバッグ ログ ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear debug-logfile syslogd_debugs
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。
debug logging	デバッグ ログ ファイルをイネーブルにします。
show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

clear install failure-reason

ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアするには、**clear install failure-reason** コマンドを使用します。

clear install failure-reason

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアする例を示します。

```
switch# clear install failure-reason
```

関連コマンド

コマンド	説明
show install all	ソフトウェア インストールのステータス情報を表示します。

clear license

ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

clear license *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルの名前。
--------------	-----------------	--------------------------

コマンド デフォルト	なし
-------------------	----

コマンド モード	EXEC モード
-----------------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、特定のライセンスをアンインストールする例を示します。 switch# clear license fm.lic
----------	--

関連コマンド	コマンド	説明
	show license	ライセンス情報を表示します。

clear user

特定のユーザをログアウトさせるには、**clear user** コマンドを使用します。

clear user *username*

構文の説明	<i>username</i>	ログアウトさせるユーザの名前。
-------	-----------------	-----------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、特定のユーザをログアウトさせる例を示します。
---	---------------------------

```
switch# clear user admin
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show users	現在、スイッチにログインしているユーザを表示します。

cli var name

ターミナルセッションの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli var name *variable-name variable-text*

no cli var name *variable-name*

構文の説明

<i>variable-name</i>	変数の名前。名前は、最大 31 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-text</i>	変数のテキスト。テキストは、最大 200 文字の長さの英数字で、スペースを含むことができます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

```
$(variable-name)
```

次のインスタンスに変数を使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内で、別の変数を参照することはできません。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、TIMESTAMP という定義済みの変数を提供しており、これを使用して時刻を挿入できます。TIMESTAMP CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

CLI 変数の定義は変更できません。変更する場合は、変数を削除した後に、新しい定義で再作成する必要があります。

例

次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testvar interface ethernet 1/3
```

次に、CLI 変数を参照する例を示します。

```
switch# show $(testvar)
```

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testvar
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>run-script</code>	コマンドスクリプトを実行します。
<code>show cli variables</code>	CLI 変数を表示します。

clock set

手動で Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

clock set *time day month year*

構文の説明

<i>time</i>	時刻。形式は、 <i>HH:MM:SS</i> です。
<i>day</i>	日。有効な範囲は 1 ~ 31 です。
<i>month</i>	月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>year</i>	年。有効な範囲は 2000 ~ 2030 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、NTP サーバなどの外部のクロック ソースとスイッチを同期できないときに使用します。

例

次に、手動でクロックを設定する例を示します。

```
switch# clock set 12:00:00 04 July 2008
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

clock summer-time

サマータイム（夏時間）オフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock summer-time *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

no clock summer-time

構文の説明

<i>zone-name</i>	タイムゾーンの文字列。タイムゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週。有効な範囲は 1 ～ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday または Sunday です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻。形式は、 <i>HH:MM</i> です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週。有効な範囲は 1 ～ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日。有効な値は、 Monday 、 Tuesday 、 Wednesday 、 Thursday 、 Friday 、 Saturday または Sunday です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月。有効な値は、 January 、 February 、 March 、 April 、 May 、 June 、 July 、 August 、 September 、 October 、 November および December です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻。形式は、 <i>HH:MM</i> です。
<i>offset-minutes</i>	分単位でのクロックのオフセット。有効な範囲は 1 ～ 1440 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 5 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムをデフォルト オフセットに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock summer-time
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show clock</code>	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 協定世界時) からのタイムゾーン オフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *zone-name* *offset-hours* *offset-minutes*

no clock timezone

構文の説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名。ゾーン名は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>	UTC からのオフセット時間数。有効な範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>	UTC からのオフセット分数。有効な範囲は 0 ~ 59 です。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、デバイスのクロックに UTC からのオフセットを設定するときに使用します。

例

次に、UTC からのタイムゾーンオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock timezone PST -8 0
```

次に、タイムゾーンオフセットをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# no clock timezone
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	クロックの時刻を表示します。

configure session

コンフィギュレーション セッションを作成または修正するには、**configure session** コマンドを使用します。

configure session *name*

構文の説明

<i>name</i>	セッションの名前。名前は、最大 63 文字の英数字で指定します。大文字と小文字は区別されます。
-------------	---

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーション セッションを作成する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show configuration session	コンフィギュレーション セッションに関する情報を表示します。

configure terminal

コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure terminal** コマンドを使用します。

configure terminal

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始するために使用します。このモードでのコマンドは、入力（Enter キー/キャリッジリターンを使用）と同時に実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。

configure terminal コマンドを入力した後は、システム プロンプトが **switch#** から **switch(config)#** に変わり、ルータがコンフィギュレーション モードであることを示します。コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** と入力するか、**Ctrl+Z** を押します。

変更した設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

例

次に、コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。
end	コンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに移行します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。

copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy *source-url destination-url*

構文の説明

<i>source-url</i>	コピーされる元のファイルまたはディレクトリの場所の URL (または変数)。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモート場合があります。 詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL (または変数)。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモート場合があります。 詳細については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

コマンド デフォルト

コピー先のファイルのデフォルト名は、コピー元のファイル名です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、1 つの場所から別の場所へファイル (システム イメージまたはコンフィギュレーション ファイルなど) をコピーできます。コピー元ファイルとそのコピー先は、Cisco NX-OS ファイル システムの URL を使用して指定します。これにより、ローカルとリモートのどちらのファイルの場所でも指定できます。使用するファイル システム (ローカル メモリ ソースまたはリモート サーバなど) により、コマンドで使用する構文が決定されます。

すべての必要なコピー元およびコピー先 URL 情報や、使用するユーザ名は、コマンドラインに入力できます。または **copy** コマンドを入力すると、CLI から必要な情報の入力を求められます。

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイルシステムの URL プレフィクス キーワード (**bootflash** など) の後にはコロン (:) が必要です。

ftp:、**scp:**、**sftp:** および **tftp:** の URL 構文では、サーバは、IPv4 アドレスまたはホスト名のいずれかです。

コピー元およびコピー先 URL の形式

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリ名またはファイル名の Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクス キーワードを指定しない場合、ルータは、現在のディレクトリでファイルを検索します。

表 1-1 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 1-2 は、リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。

表 1-3 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。

ここでは、次の操作に関する使用ガイドラインを示します。

表 1-1 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash: <i>[/server/]</i>	ブート フラッシュ メモリのコピー元またはコピー先の URL。 <i>server</i> 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。
volatile: <i>[/server/]</i>	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元またはコピー先の URL。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリポート時に消去されます。 <i>server</i> 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。

表 1-2 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp: <i>[/server][/path]/filename</i>
scp:	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 scp: <i>[/[username@]server][/path]/filename</i>
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 sftp: <i>[/[username@]server][/path]/filename</i>
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 tftp: <i>[/server[:port]][/path]/filename</i>

表 1-3 特殊ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
core:	コア ファイルのローカル メモリ。コア ファイルをコア ファイル システムからコピーできます。
debug:	デバッグ ファイルのローカル メモリ。コア ファイルをデバッグ ファイル システムからコピーできます。
log:	ログ ファイルのローカル メモリ。ログ ファイルをログ ファイル システムからコピーできます。
modflash:	mod ファイルの外部メモリ。mod ファイルを modflash ファイル システムからコピーできます。

表 1-3 特殊ファイル システムの URL プレフィクス キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
system:	ローカル システム メモリ。実行コンフィギュレーションをシステム ファイル システムへ、またはシステム ファイル システムからコピーできます。システム ファイル システムの使用は、コマンドで <code>running-config</code> ファイルを参照するときは任意です。
volatile:	ローカル揮発性メモリ。揮発性ファイル システムへ、または揮発性ファイル システムからファイルをコピーできます。揮発性メモリのファイルはすべて、物理デバイスがリロードすると失われます。

- 「サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー」 (P.1-22)
- 「サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.1-22)
- 「サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.1-22)
- 「サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー」 (P.1-22)

サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー

イメージをサーバからローカルブートフラッシュ メモリにコピーするには、`copy source-url bootflash:` コマンド (たとえば、`copy tftp:source-url bootflash:`) を使用します。

サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、デバイスの実行コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをダウンロードするには、`copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url running-config` コマンドを使用します。設定は、コマンドを CLI に入力した場合と同様に、実行コンフィギュレーションに追加されます。その結果、コンフィギュレーション ファイルは、以前の実行コンフィギュレーションとダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルを組み合わせられたものとなります。以前の実行コンフィギュレーションより、ダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルが優先して適用されます。

ホスト コンフィギュレーション ファイルまたはネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーできます。特定の 1 つのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むホスト コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、デフォルト値の `host` を使用します。ネットワーク上のすべてのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、`network` を入力します。

サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、ルータのスタートアップ コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、`copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url startup-config` コマンドを使用します。これらのコマンドにより、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが、コピーしたコンフィギュレーション ファイルに置き換えられます。

サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

FTP、SCP、SFTP、または TFTP を使用するネットワーク サーバに現在のコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、`copy running-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url` コマンドを使用します。ネットワーク サーバにスタートアップ コンフィギュレーション ファイルをコピーするには、`copy startup-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url` コマンドを使用します。

コピーしたコンフィギュレーション ファイルのコピーはバックアップとして使用できます。

例

次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my-scripts/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://192.168.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
move	ファイルを移動します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

copy running-config startup-config

現在のすべての設定情報をリブート後にも使用可能になるよう、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

copy running-config startup-config

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

変更した設定を表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。



(注)

copy running-config startup-config コマンドを入力した後は、実行中の設定と起動時の設定が同じになります。

例

次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	現在実行中のコンフィギュレーションを表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを表示します。

databits

端末ポートの文字に含まれるデータ ビット数を設定するには、**databits** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

databits *bits*

no databits *bits*

構文の説明	<i>bits</i> 1 文字中のデータ ビット数。有効な範囲は 5 ～ 8 です。				
コマンド デフォルト	8 ビット				
コマンド モード	端末ライン コンフィギュレーション モード				
コマンド履歴	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">リリース</th> <th style="text-align: left;">変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(0)N1(1a)</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。				
例	<p>次に、コンソール ポートのデータ ビット数を設定する例を示します。</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)# line console switch(config-console)# databits 7</pre> <p>次に、コンソール ポートのデータ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。</p> <pre>switch# configure terminal switch(config)# line console switch(config-console)# no databits 7</pre>				
関連コマンド	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">コマンド</th> <th style="text-align: left;">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>show line</td> <td>コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。
コマンド	説明				
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。				

debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug logfile filename [size bytes]
```

```
no debug logfile filename [size bytes]
```

構文の説明	
<i>filename</i>	debug コマンドの出力ファイルの名前。ファイル名は、最大 64 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で指定します。有効な範囲は 4096 ~ 4194304 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン Cisco NX-OS ソフトウェアは、log: ファイル システム ルート ディレクトリにログ ファイルを作成します。ログ ファイルを表示するには、**dir log:** コマンドを使用します。

例 次に、デバッグ ログ ファイルを指定する例を示します。

```
switch# debug logfile debug_log
```

次に、デフォルトのデバッグ ログ ファイルに戻す例を示します。

```
switch# no debug logfile debug_log
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	ディレクトリの内容を表示します。
	show debug logfile	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

debug logging

debug コマンド出力のロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug logging

no debug logging

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug logfile	debug コマンド出力のログ ファイルを設定します。

delete

ファイルまたはディレクトリを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:] [//server/] [directory].filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 debug 、 log 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注) *filesystem://server/directory/filename* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

delete コマンドでディレクトリを削除すると、その内容も削除されます。このコマンドでディレクトリを削除する場合は、注意が必要です。

例

次に、ファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

次に、ディレクトリを削除する例を示します。

```
switch# delete my_dir
This is a directory. Do you want to continue (y/n)? [y] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>dir</code>	ディレクトリの内容を表示します。
<code>save</code>	コンフィギュレーション セッションをファイルに保存します。

dir

ディレクトリの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

```
dir [filesystem:] [//server/] [directory]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 debug 、 log 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

現在の作業ディレクトリの内容を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

dir コマンドを使用すると、指定したディレクトリにあるファイルのリストが表示されます。各ファイルについては、ファイルのサイズ (バイト単位)、最終変更日時、ファイル名のリストが表示されます。その後、ファイル システムの使用に関する統計が表示されます。

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

例

次に、ブートフラッシュのルート ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
```

次に、現在の作業ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
rmdir	ディレクトリを削除します。

echo

端末にテキスト文字列を表示するには、**echo** コマンドを使用します。

echo [*text*]

構文の説明

<i>text</i>	(任意) 表示するテキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は 200 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、スペースを含むことができます。テキスト文字列には、CLI 変数への参照も含めることができます。
-------------	--

コマンド デフォルト

空白行。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、ステータス情報を表示したり、スクリプトの実行中にプロンプトを表示したりできます。

例

次に、コマンド プロンプトで空白行を表示する例を示します。

```
switch# echo
```

次に、コマンド プロンプトで 1 行のテキストを表示する例を示します。

```
switch# echo Script run at $(TIMESTAMP).
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンドスクリプトを実行します。
show cli variables	CLI 変数を表示します。

end

現在のコンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、現在使用しているコンフィギュレーション モードにかかわらず、EXEC モードに戻ります。このコマンドは、システムの設定を終了し、EXEC モードに戻って確認手順を実行するときに使用します。

例

次の例では、**end** コマンドを使用してインターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、EXEC モードに戻ります。設定を確認するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport host
switch(config-if)# end
switch# show interface ethernet 1/1
```

関連コマンド

コマンド	説明
exit (EXEC)	ルータからログアウトして、アクティブなターミナル セッションを終了します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了します。

exec-timeout

コンソール ポート上または仮想端末上の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

exec-timeout *minutes*

no exec-timeout

構文の説明

<i>minutes</i>	分単位での時間。有効な範囲は 0 ~ 525600 です。0 分を設定すると、タイムアウトがディセーブルになります。
----------------	--

コマンド デフォルト

タイムアウトはディセーブルです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。

例

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# exec-timeout 30
```

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no exec-timeout
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# exec-timeout 30
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no exec-timeout
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
line vty	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

exit (EXEC)

スイッチからログアウトして、アクティブなターミナル セッションを終了するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、**exit (グローバル)** コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードから EXEC モードに移動し、**exit (EXEC)** コマンドを使用してログアウト (アクティブなセッションを終了) する例を示します。

```
switch(config)# exit
switch# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに移行します。
exit (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。

exit (グローバル)

任意のコンフィギュレーション モードを終了して、CLI モードの階層構造で次に高度なモードに移動するには、任意のコンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

すべてのコンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

exit コマンドをコンフィギュレーション モードで使用すると、EXEC モードに戻ります。**exit** コマンドをインターフェイス、VLAN、またはゾーンの各コンフィギュレーション モードで使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最高レベルである EXEC モードでは、**exit** コマンドで EXEC モードを終了し、スイッチとの接続を切断します（詳細については、**exit (EXEC)** コマンドの説明を参照してください）。

例

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーション モードに戻る例を示します。

```
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション セッションを終了して、特権 EXEC モードに移行します。
exit (EXEC)	ルータからログアウトして、アクティブなターミナル セッションを終了します。

feature fcoe

FC_FEATURES_PKG ライセンスのインストール後に仮想およびネイティブのファイバチャネルインターフェイスをイネーブルにするには、**feature fcoe** コマンドを使用します。ファイバチャネルインターフェイスをディセーブルにして、FC_FEATURES_PKG ライセンスをライセンス マネージャソフトウェアに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fcoe

no feature fcoe

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

FCoE 機能をイネーブルまたはディセーブルにするには、コンフィギュレーションを保存してからスイッチをリブートする必要があります。

例

次に、スイッチの FCoE をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fcoe
```

関連コマンド

コマンド	説明
fcoe	FCoE パラメータを設定します。
show feature	FCoE がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature fex

スイッチでファブリック エクステンダ (FEX) 機能をイネーブルにするには、**feature fex** コマンドを使用します。FEX をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature fex

no feature fex

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N2(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スイッチで FEX 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature fex
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
fex	ファブリック エクステンダを作成し、ファブリック エクステンダ コンフィギュレーション モードを開始します。
show feature	スイッチでイネーブルまたはディセーブルである機能を表示します。

feature interface-vlan

VLAN インターフェイスの作成をイネーブルにするには、**feature interface-vlan** コマンドを使用します。VLAN インターフェイス機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature interface-vlan

no feature interface-vlan

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

VLAN インターフェイスはディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

feature interface-vlan コマンドは、VLAN インターフェイスを作成する前に使用する必要があります。

例

次に、スイッチでインターフェイス上の VLAN 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature interface-vlan
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface vlan	VLAN インターフェイスを作成します。
show feature	VLAN インターフェイスがスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにするには、**feature lacp** コマンドを使用します。LACP は、複数の物理ポートをバンドルして単一の論理チャネルを作成します。スイッチで LACP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature lacp

no feature lacp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

LACP はディセーブルです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

LACP をディセーブルにするには、スイッチのすべてのポート チャネルからすべての LACP コンフィギュレーション パラメータを削除する必要があります。

グローバルに LACP をイネーブルにした後でも、スイッチのすべてのポート チャネルで LACP を実行する必要はありません。各チャネル モードで LACP をイネーブルにするには、**channel-group mode** コマンドを使用します。

例

次に、スイッチで LACP ポート チャネルをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature lacp
```

関連コマンド

コマンド	説明
show lacp	LACP に関する情報を表示します。
show feature	LACP がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature lldp

ネットワーク デバイスがネットワーク上の他のデバイスに自分の情報をアドバタイズするために使用するネイバー探索プロトコルである Link Layer Discovery Protocol (LLDP) は、スイッチにおいてデフォルトでイネーブルです。

コマンド デフォルト イネーブル

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチ上では、LLDP をイネーブルまたはディセーブルにできません。LLDP はスイッチではデフォルトでイネーブルです。ただし、**feature lldp** コマンドは、スイッチの実行コンフィギュレーションの一部として表示します。

Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) は、すべてのシスコ製デバイス (ルータ、ブリッジ、アクセス サーバ、およびスイッチ) のレイヤ 2 (データ リンク レイヤ) 上で動作するデバイス検出プロトコルです。ネットワーク管理アプリケーションは CDP を使用することにより、ネットワーク接続されている他のシスコ デバイスを自動的に検出し、識別できます。

スイッチでは他社製のデバイスをサポートし他のデバイス間の相互運用性を確保するために、Link Layer Discovery Protocol (LLDP) をサポートしています。LLDP は、ネットワーク デバイスがネットワーク上の他のデバイスに自分の情報をアドバタイズするために使用するネイバー探索プロトコルです。このプロトコルはデータ リンク レイヤで動作するため、異なるネットワーク レイヤプロトコルが稼動する 2 つのシステムで互いの情報を学習できます。

例

次に、スイッチの LLDP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature lldp
switch(config)#
```

次に、スイッチ上で LLDP をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature lldp
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
lldp	スイッチにグローバル LLDP オプションを設定します。
lldp (インターフェイス)	インターフェイスに LLDP 機能を設定します。
show feature	LLDP がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature private-vlan

プライベート VLAN をイネーブルにするには、**feature private-vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature private-vlan

no feature private-vlan

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

プライベート VLAN はディセーブルです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

プライベート VLAN コマンドは、ユーザがプライベート VLAN 機能をイネーブルにするまで使用可能になりません。

プライベート VLAN モードのスイッチに動作中のポートがある場合は、プライベート VLAN をディセーブルにはできません。



(注)

現行リリースの Cisco NX-OS を実行している Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのプライベート VLAN 独立ポートは、IEEE 802.1Q のカプセル化をサポートしておらず、トランク ポートとして使用できません。

例

次に、スイッチでプライベート VLAN 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature private-vlan
```

関連コマンド

コマンド	説明
private-vlan	VLAN をコミュニティ、独立、プライマリ のいずれかのプライベート VLAN に設定します。
show vlan private-vlan	プライベート VLAN に関する情報を表示します。機能がイネーブルになっていない場合には、このコマンドは使用できません。
show feature	プライベート VLAN がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature tacacs+

TACACS+ をイネーブルにするには、**feature tacacs+** コマンドを使用します。TACACS+ をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature tacacs+

no feature tacacs+

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

TACACS+ を設定する前に、**feature tacacs+** コマンドを使用する必要があります。



(注)

TACACS+ をディセーブルにすると、Cisco NX-OS ソフトウェアにより TACACS+ 設定が削除されません。

例

次に、TACACS+ をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature tacacs+
```

次に、TACACS+ をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no feature tacacs+
```

関連コマンド

コマンド	説明
show tacacs+	TACACS+ 情報を表示します。
show feature	TACACS+ がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature udd

シスコ独自の Unidirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出) プロトコルをイネーブルにするには、**feature udd** コマンドを使用します。UDLD をイネーブルにすると、光ファイバまたは銅線イーサネット ケーブルを介して接続されているポート上で、ケーブルの物理設定を監視し、単方向リンクの存在を検出できます。スイッチで UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature udd

no feature udd

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

UDLD はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スイッチの UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature udd
```

関連コマンド

コマンド	説明
show udd	UDLD の管理ステータスおよび動作ステータスを表示します。
show feature	UDLD がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

feature vpc

Virtual Port Channel (vPC; 仮想ポート チャンネル) をイネーブルにするには、**feature vpc** コマンドを使用します。vPC をイネーブルにすると、2 つの異なる Cisco Nexus 5000 シリーズ デバイスに物理的に接続されるリンクを 3 番目のデバイスの単一ポート チャンネルとして表示できます。スイッチで vPC をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

feature vpc

no feature vpc

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

vPC 設定では、3 番目のデバイスには、Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender またはスイッチ、サーバ、その他の任意のネットワーキング デバイスを使用できます。

例

次に、スイッチの vPC をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature vpc
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vpc	vPC 設定ステータスを表示します。
show feature	vPC がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

find

特定の文字列で始まるファイル名を検索するには、**find** コマンドを使用します。

find filename-prefix

構文の説明	<i>filename-prefix</i>	ファイル名の最初の部分または全体。ファイル名プレフィクスでは、大文字と小文字が区別されます。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース 4.0(0)N1(1a)	変更内容 このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	find コマンドを使用すると、現在の作業ディレクトリの下にあるサブディレクトリがすべて検索されます。 cd および pwd コマンドを使用して、最初に検索するディレクトリに移動することができます。	
例	次に、「n5000」で始まるファイル名を表示する例を示します。 switch# find n5000	
関連コマンド	コマンド	説明
	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

format

ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする、つまり、内容を消去して、工場からの出荷時の状態に戻すには、**format** コマンドを使用します。

format bootflash:

構文の説明	bootflash: ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。								
コマンド デフォルト	なし								
コマンド モード	EXEC モード								
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(0)N1(1a)</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。				
リリース	変更内容								
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。								
例	次に、ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする例を示します。 switch# format bootflash:								
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>cd</td> <td>現在の作業ディレクトリを変更します。</td> </tr> <tr> <td>dir</td> <td>ディレクトリの内容を表示します。</td> </tr> <tr> <td>pwd</td> <td>現在の作業ディレクトリ名を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	cd	現在の作業ディレクトリを変更します。	dir	ディレクトリの内容を表示します。	pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
コマンド	説明								
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。								
dir	ディレクトリの内容を表示します。								
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。								

gunzip

圧縮ファイルを解凍するには、**gunzip** コマンドを使用します。

```
gunzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	解凍するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注)

filesystem://server/directory/filename スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

圧縮ファイルの名前に **.gz** 拡張子が含まれている必要があります

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

例

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します。

```
switch# gunzip run_cfg.cfg.gz
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
gzip	ファイルを圧縮します。

gzip

ファイルを圧縮するには、**gzip** コマンドを使用します。

```
gzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (<i>//</i>) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	圧縮するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注) *filesystem://server/directory/filename* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを実行した後は、指定されたファイルが、ファイル名に **.gz** 拡張子が追加された圧縮ファイルに置き換えられます。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

例

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# gzip run_cfg.cfg
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	ディレクトリの内容を表示します。
gunzip	圧縮ファイルを解凍します。

hostname

スイッチのホスト名を設定するには、**hostname** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

hostname *name*

no hostname

構文の説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名。この名前は、最大 32 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトのホスト名は「switch」です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

hostname コマンドは、**switchname** コマンドと同じ機能を実行します。

例

次に、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hostname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no hostname
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hostname	スイッチのホスト名を表示します。
show switchname	スイッチのホスト名を表示します。
switchname	スイッチのホスト名を設定します。

install all

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチにキックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールするには、**install all** コマンドを使用します

```
install all [kickstart kickstart-url] [system system-url]
```

構文の説明

kickstart	(任意) キックスタート イメージ ファイルを指定します。
<i>kickstart-url</i>	キックスタート イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
system	(任意) システム イメージ ファイルを指定します。
<i>system-url</i>	システム イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

コマンド デフォルト

パラメータを入力しない場合は、ブート変数の値が使用されます。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

キックスタートおよびシステムの URL の形式は、ファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの場所によって異なります。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィクス キーワードのリストです。URL プレフィクス キーワードを指定しない場合、ルータは、現在のディレクトリでファイルを検索します。

表 1-4 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。表 1-5 は、リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワードのリストです。リモート ファイル システムでは、特に指定しない場合、パスはリモート サーバ上のユーザのデフォルトパスです。

表 1-4 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
bootflash: [//server/]	ブート フラッシュ メモリのコピー元 URL。server 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。
modflash: [//server/]	外部フラッシュ ファイル システムのコピー元 URL。server 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。
volatile: [//server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元の URL。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチの起動時に消去されます。server 引数の値は、 module-1 、 sup-1 、 sup-active または sup-local です。

表 1-5 リモート ファイル システムの URL プレフィクス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp:	FTP ネットワーク サーバのコピー元の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 ftp:[//server][[/path]/filename]
scp:	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用するネットワークサーバのコピー元の URL を指定します。構文は、次のとおりです。 scp:[//[username@]server][[/path]/filename]
sftp:	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元の URL。構文は、次のとおりです。 sftp:[//[username@]server][[/path]/filename]
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元の URL。構文は、次のとおりです。 tftp:[//server[:port]][[/path]/filename]

イメージ ファイルをリモート サーバからダウンロードしてインストールするとき、サーバに関する情報またはユーザ名を入力していない場合は、情報の入力を求められます。

このコマンドは、キックスタートおよびシステムのブート変数を設定し、イメージ ファイルを冗長 スーパーバイザ モジュールにコピーします。

install all コマンドを使用すると、スイッチ ソフトウェアをアップグレードして、接続されているすべてのシャーシのファブリック エクステンダ ソフトウェアをアップグレードできます。ソフトウェアのコピー中、ファブリック エクステンダにより、通過中のトラフィックはオンラインのままになります。ソフトウェア イメージが正常にインストールされると、親スイッチおよびファブリック エクステンダ シャーシが自動的にリブートされ、親スイッチとファブリック エクステンダ間でのソフトウェア バージョンの互換性が維持されます。

install all コマンドを使用すると、スイッチの Cisco NX-OS ソフトウェアをダウングレードできます。ダウングレード ソフトウェアに、スイッチの現在の設定との互換性があるかどうかを調べるには、**show incompatibility system** コマンドを使用し、設定の互換性に問題がある場合は、それを解決します。

例

次に、bootflash: ディレクトリから Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# install all kickstart bootflash:nx-os_kick.bin system bootflash:nx-os_sys.bin
```

次に、キックスタートおよびシステムのブート変数に設定された値を使って、Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:nx-os_kick.bin
switch(config)# boot system bootflash:nx-os_sys.bin
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
switch# install all
```

次に、SCP サーバから Cisco NX-OS をインストールする例を示します。

```
switch# install all kickstart scp://adminuser@192.168.1.1/nx-os_kick.bin system
bootflash:scp://adminuser@192.168.1.1/nx-os_sys.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
show incompatibility system	Cisco NX-OS システム ソフトウェア イメージ間の設定互換性の問題を表示します。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

install license

ライセンスをインストールするには、**install license** コマンドを使用します。

```
install license [filesystem:] [//server/] [directory] src-filename [target-filename]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前。
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲット ライセンス ファイルの名前。



(注)

filesystem://server/directory/filename スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのライセンスはすべて、工場出荷時にインストールされています。手動インストールは不要です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ターゲット ファイル名をコピー元の場所の後に指定した場合は、ライセンス ファイルがその名前でインストールされます。それ以外の場合、コピー元 URL のファイル名が使用されます。また、このコマンドはインストール前のライセンス ファイルも検証します。

例

次に、bootflash: ディレクトリに常駐する、license-file という名前のファイルをインストールする例を示します。

```
switch# install license bootflash:license-file
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

line console

コンソール ポートを指定して、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。

line console

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール回線は、コンソール ポート セッションだけから設定できます。

例

次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
databits	ポートの文字に含まれるデータ ビットの数を設定します。
exec-timeout	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
modem	ポートのモデム設定を指定します。
parity	ポートのパリティ設定を指定します。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。
speed	ポートの送信速度と受信速度を設定します。
stopbits	ポートのストップ ビットを設定します。

line vty

仮想端末を指定して、ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。

line vty

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
exec-timeout	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
session-limit	同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定します。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

modem in

コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにするには、**modem in** コマンドを使用します。モデム接続をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem in

no modem in

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

タイムアウトはディセーブルです。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。

例

次に、コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem in
```

次に、コンソール ポートでモデム接続をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem in
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

modem init-string

コンソール ポートに接続されたモデムに初期化文字列をダウンロードするには、**modem init-string** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem init-string {default | user-input}

no modem init-string

構文の説明

default	デフォルトの初期化文字列をダウンロードします。
user-input	ユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。

コマンド デフォルト

デフォルトの初期化文字列は ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 です。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。デフォルトの初期化文字列 ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 の定義は次のとおりです。

- AT : 注意
- E0 (必須) : エコーなし
- Q1 : 結果コードがオン
- &D2 : 通常の Data Terminal Ready (DTR; データ端末動作可能) オプション
- &C1 : データ キャリア状態の追跡がイネーブル
- S0=1 : 1 回の呼び出し音の後に応答
- \015 (必須) : オクタルでの改行 (CR)

ユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string** コマンドを使用します。

例

次に、コンソール ポートに接続されたモデムにデフォルトの初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string default
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムの初期化文字列を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem init-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
modem set-string	モデムのユーザ入力の初期化文字列を設定します。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

modem set-string user-input

コンソール ポートに接続されたモデムにダウンロードするためのユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string user-input** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

modem set-string user-input *string*

no modem set-string

構文の説明

string ユーザ入力の文字列。この文字列は、最大 100 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含むことができます。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。

例

次に、コンソール ポートに接続されたモデムのための、ユーザ入力の初期化文字列を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムのための、デフォルトのユーザ入力の初期化文字列に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem set-string
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
modem init-string	モデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

move

あるディレクトリから別のディレクトリにファイルを移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move {[filesystem:] [//server/] [directory] source-filename} [filesystem:] [//server/]
[directory] [destination-filename]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 debug 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>destination-filename</i>	(任意) 移動先ファイルの名前。ファイル名は、最大 64 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの移動先ファイル名は、移動元のファイルと同じです。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

copy コマンドを使用すると、ファイルのコピーを作成できます。



ヒント

同じディレクトリ内でファイルを移動することで、ファイル名を変更できます。

例

次に、別のディレクトリにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 my_files/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 volatile:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルのコピーを作成します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

parity

コンソール ポートのパリティを設定するには、**parity** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
parity {even | none | odd}
```

```
no parity {even | none | odd}
```

構文の説明

even	偶数パリティを指定します。
none	パリティなしを指定します。
odd	奇数パリティを指定します。

コマンドデフォルト

デフォルトは **none** キーワードです。

コマンドモード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。

例

次に、コンソール ポートにパリティを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# parity even
```

次に、コンソール ポートのデフォルトのパリティに戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no parity even
```

関連コマンド

コマンド	説明
show line	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

ping

別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を調べるには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [df-bit] [interval seconds]
[packet-size bytes] [source src-address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name | default |
management}]
```

構文の説明

<i>dest-address</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレス。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
count	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	ping の数。有効な範囲は 1 ～ 655350 です。デフォルトは 5 です。
unlimited	無制限の回数の ping を許可します。
df-bit	(任意) IPv4 ヘッダーの do-not-fragment ビットをイネーブルにします。デフォルトはディセーブルです。
interval <i>seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 0 ～ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケットサイズをバイト数で指定します。有効な範囲は 1 ～ 65468 です。デフォルト値は 56 バイトです。
source <i>scr-address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv4 アドレスを指定します。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 1 ～ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意) 管理 VRF を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「構文の説明」を参照してください。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、別のネットワーク デバイスへの接続性を調べる例を示します。

```
switch# ping 192.168.2.246
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ping6</code>	IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
<code>traceroute</code>	IP アドレスに転送されるときのパケットのルートを表示します。

ping6

IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとのネットワーク接続を確認するには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [interface intf-id] [interval
seconds] [packet-size bytes] [source address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name |
default | management}]
```

構文の説明

<i>dest-address</i>	宛先 IPv6 アドレス。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
count	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	ping の数。有効な範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 です。
unlimited	無制限の回数の ping を許可します。
interface <i>intf-id</i>	(任意) IPv6 パケットを送信するインターフェイスを指定します。有効なインターフェイスタイプは、イーサネット、ループバック、EtherChannel および VLAN です。
interval <i>seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 0 ~ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
packet-size <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケットサイズをバイト数で指定します。有効な範囲は 1 ~ 65468 です。
source <i>address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv6 アドレスを指定します。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。
timeout <i>seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意) 管理 VRF を指定します。

コマンドデフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「構文の説明」を参照してください。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を判別する例を示します。

```
switch# ping6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>ping</code>	IPv4 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
<code>tracert6</code>	IPv6 アドレスに転送されるときのパケットのルートを表示します。

reload

スイッチおよび接続されているすべてのファブリック エクステンダ シャーシまたは特定のファブリック エクステンダをリロードするには、**reload** コマンドを使用します。

reload {**all** | **fex chassis_ID**}

構文の説明

all	Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチ全体および接続されているすべてのファブリック エクステンダ シャーシをリブートします。
fex chassis_ID	特定のファブリック エクステンダ シャーシをリブートします。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。

コマンド デフォルト

Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチをリロードします。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	Cisco Nexus 2000 シリーズ Fabric Extender のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

reload コマンドを使用すると、スイッチおよびファブリック エクステンダ上のトラフィックが中断されます。



(注)

reload コマンドでは、実行コンフィギュレーションが保存されません。デバイスの現在のコンフィギュレーションを保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

例

次に、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチをリロードする例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
switch# reload
This command will reboot the system. (y/n)? [n] y
```

次に、ファブリック エクステンダをリロードする例を示します。

```
switch# reload fex 101
WARNING: This command will reboot FEX 101
Do you want to continue? (y/n) [n] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	現在の実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

rmdir

ディレクトリを削除するには、**rmdir** コマンドを使用します。

rmdir [*filesystem*: [//*server*/]] *directory*

構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 modflash または volatile です。
// <i>server</i> /	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	削除するディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
switch# rmdir my_files
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
delete	ファイルまたはディレクトリを削除します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

run-script

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) でコマンド スクリプト ファイルを実行するには、**run-script** コマンドを使用します。

run-script [*filesystem*:*//module*/>*]/*directory*/*filename**

構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。名前では、大文字と小文字が区別されず。
<i>//module</i> / <i></i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 sup-active 、 sup-local 、 sup-remote または sup-standby です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory</i> / <i></i>	(任意) ディレクトリの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	コマンドファイルの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory/filename スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

リモート デバイスでコマンド ファイルを作成し、**copy** コマンドで Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチにダウンロードする必要があります。

例

次に、コマンド スクリプト ファイルを実行する例を示します。

```
switch# run-script script-file
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルをコピーします。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
echo	端末にテスト文字列を表示します。

コマンド	説明
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
<code>sleep</code>	定義した秒数の間、CLI を一時停止します。

save

現在のコンフィギュレーション セッションをファイルに保存するには、**save** コマンドを使用します。

save location

構文の説明

<i>location</i>	ファイルの場所。保存場所には、 bootflash または volatile を指定できます。ファイル名は、最大 63 文字の英数字で指定できます。
-----------------	--

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンフィギュレーション セッションをブートフラッシュのファイルに保存する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)# save bootflash:sessions/MySession
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーション セッションを作成または修正します。
delete	指定位置からファイルを削除します。

send

アクティブなユーザ セッションにメッセージを送信するには、**send** コマンドを使用します。

send [*session line*] *text*

構文の説明

session line	(任意) ユーザ セッションを指定します。
text	テキスト文字列。このテキスト文字列は最大 80 文字の英数字で、大文字と小文字を区別します。

コマンド デフォルト

アクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

show users コマンドを使用すると、アクティブなユーザ セッションに関する情報を表示できます。

例

次に、スイッチでアクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send The system will reload in 15 minutes!
The system will reload in 15 minutes!
```

次に、特定のユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send session pts/0 You must log off the switch.
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users	スイッチでアクティブなユーザ セッションを表示します。

setup

基本デバイス セットアップ ダイアログを開始するには、**setup** コマンドを使用します。

setup [ficon]

構文の説明	ficon	(任意) 基本 ficon セットアップ コマンド ファシリティを実行します。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド モード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	セットアップ スクリプトは、ユーザが設定した値ではなく、出荷時のデフォルト値を使用します。Ctrl+C を押すと、どの時点でもダイアログを終了できます。	
例	次に、基本デバイス セットアップ スクリプトを開始する例を示します。 switch# setup	
関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

session-limit

デバイスの同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定するには、**session-limit** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

session-limit *sessions*

no session-limit *sessions*

構文の説明

sessions セッションの最大数。有効な範囲は 1 ～ 64 です。

コマンド デフォルト

32 セッション。

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# session-limit 48
```

次に、同時仮想ターミナルセッションのデフォルトの最大数に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no session-limit 48
```

関連コマンド

コマンド	説明
line vty	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

show banner motd

Message-of-The-Day (MOTD) バナーを表示するには、**show banner motd** コマンドを使用します。

show banner motd

構文の説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト なし

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、MOTD バナーを表示する例を示します。

```
switch# show banner motd
Unauthorized access is prohibited!
```

関連コマンド	コマンド	説明
	banner motd	MOTD バナーを設定します。

show boot

ブート変数の設定を表示するには、**show boot** コマンドを使用します。

show boot [variables]

構文の説明	variables (任意) ブート変数のリストを表示します。
-------	--

コマンド デフォルト	設定されたすべてのブート変数を表示します。
------------	-----------------------

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、設定されたすべてのブート変数を表示する例を示します。

```
switch# show boot
```

次に、ブート変数名のリストを表示する例を示します。

```
switch# show boot variables
```

関連コマンド	コマンド	説明
	boot	キックスタート イメージまたはシステム イメージのブート変数を設定します。

show cli alias

コマンドエイリアス設定を表示するには、**show cli alias** コマンドを使用します。

```
show cli alias [name alias-name]
```

構文の説明

name <i>alias-name</i>	(任意) コマンドエイリアスの名前を指定します。エイリアス名では、大文字と小文字の区別がありません。
-------------------------------	--

コマンドデフォルト

設定されたすべてのコマンドエイリアス変数を表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、設定されたすべてのコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias
```

次に、特定のコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias name ethint
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli alias name	コマンドエイリアスを設定します。

show cli history

コマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

show cli history [*lines*] [**unformatted**]

構文の説明

<i>lines</i>	(任意) コマンド履歴の末尾から指定した行数を表示します。
unformatted	(任意) 行番号もタイム スタンプも含めずにコマンドを表示します。

コマンド デフォルト

書式化された履歴全体を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コマンドの履歴全体を表示する例を示します。

```
switch# show cli history
```

次に、コマンド履歴の最後の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# show cli history 10
```

次に、書式化されていないコマンド履歴を表示する例を示します。

```
switch# show cli history unformatted
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear cli history	コマンドの履歴をクリアします。

show cli variables

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) 変数の設定を表示するには、**show cli variables** コマンドを使用します。

show cli variables

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、CLI 変数を表示する例を示します。

```
switch# show cli variables
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli var name	CLI 変数を設定します。

show clock

現在の日時を表示するには、**show clock** コマンドを使用します。

show clock [detail]

構文の説明	detail (任意) サマータイム (夏時間) オフセットの設定を表示します。
-------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例	次に、現在のクロックの設定を表示する例を示します。
---	---------------------------

```
switch# show clock
```

次に、現在のクロックの設定とサマータイム (夏時間) の設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock detail
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clock set	クロックの時刻をセットします。
	clock summer-time	サマータイム (夏時間) オフセットを設定します。

show configuration session

コンフィギュレーションセッションに関する情報を表示するには、**show configuration session** コマンドを使用します。

show configuration session [*session-name* | **status** | **summary**]

構文の説明

session-name	(任意) コンフィギュレーションセッション名です。この名前には最大 64 文字までの英数字を指定できます。
status	(任意) コンフィギュレーションセッションのステータスを表示します。
summary	(任意) アクティブなコンフィギュレーションセッションに関する情報のサマリーを表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、特定のコンフィギュレーションセッションに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show configuration session mySession1
config session name mySession1
0001 ip access-list myACL
0002 permit icmp any any
0003 statistics per-entry
switch#
```

次に、アクティブなコンフィギュレーションセッションのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show configuration session status
=====
Session Name           : mySession1
Last Action            : Validate
Last Action Status     : Success
Last Action Reason     : -NA-
Last Action Timestamp  : 19:03:49 UTC Sep 06 2009
=====
```

```
switch#
```

次に、アクティブなコンフィギュレーションセッションに関する情報のサマリーを表示する例を示します。

```
switch# show configuration session summary
Session Manager Database:
-----
Name                Session Owner          Creation Time
-----
```

■ show configuration session

```
mySession1          root          18:09:03 UTC Sep 06 2009

Number of active configuration sessions = 1
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
configure session	コンフィギュレーションセッションを作成します。

show copyright

Cisco NX-OS ソフトウェアの著作権情報を表示するには、**show copyright** コマンドを使用します。

show copyright

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、Cisco NX-OS の著作権情報を表示する例を示します。

```
switch# show copyright
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2010, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
switch#
```

show debug logfile

デバッグ ログ ファイルの内容を表示するには、**show debug logfile** コマンドを使用します。

show debug logfile *filename*

構文の説明

<i>filename</i>	デバッグ ログ ファイルの名前。
-----------------	------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ログ ファイルは log: ファイル システムにあります。

例

次に、デバッグ ログ ファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show debug logfile dmesg
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug logfile	デバッグ ログ ファイルを設定します。

show environment

ハードウェア環境のステータスに関する情報を表示するには、**show environment** コマンドを使用します。

show environment [fan | power | temperature]

構文の説明

fan	(任意) ファンの環境に関する情報を表示します。
power	(任意) 電力容量と配電に関する情報を表示します。
temperature	(任意) 温度環境に関する情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ハードウェア環境に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment
```

Fan:

Fan	Model	Hw	Status
Chassis-1	N5K-C5020-FAN	--	ok
Chassis-2	--	--	absent
Chassis-3	N5K-C5020-FAN	--	ok
Chassis-4	N5K-C5020-FAN	--	ok
Chassis-5	N5K-C5020-FAN	--	ok
PS-1	N5K-PAC-1200W	--	failure
PS-2	N5K-PAC-1200W	--	ok

Temperature

Module	Sensor	MajorThresh (Celsius)	MinorThres (Celsius)	CurTemp (Celsius)	Status
1	Outlet-1	60	50	41	ok
1	Outlet-2	60	50	44	ok
1	Outlet-3	60	50	36	ok
1	Outlet-4	60	50	39	ok
1	Intake-1	50	40	26	ok
1	Intake-2	50	40	25	ok
1	Intake-3	50	40	25	ok
1	Intake-4	50	40	25	ok
1	PS-1	60	50	20	ok

show environment

```

1      PS-2      60      50      27      ok
3      Outlet-1  60      50      30      ok
2      Outlet-1  60      50      32      ok

```

```

Power Supply:
Voltage: 12 Volts

```

```

-----
PS  Model                Power      Power      Status
      (Watts)      (Amp)
-----
1  --                    --          --          fail/shutdown
2  N5K-PAC-1200W        1200.00    100.00      ok

```

```

Mod Model                Power      Power      Power      Power      Status
      Requested Requested  Allocated Allocated
      (Watts)      (Amp)      (Watts)      (Amp)
-----
--
1  N5K-C5020P-BF-SUP      625.20    52.10      625.20    52.10      powered-
up
2  N5K-M1600              54.00     4.50       54.00     4.50       powered-
up
3  N5K-M1008              9.96      0.83       9.96      0.83       powered-
up

```

```

Power Usage Summary:

```

```

-----
Power Supply redundancy mode:      Redundant
Power Supply redundancy operational mode: Non-redundant

```

```

Total Power Capacity                1200.00 W

```

```

Power reserved for Supervisor(s)    625.20 W
Power currently used by Modules      63.96 W

```

```

-----
Total Power Available                510.84 W
-----

```

```

switch#

```

次に、電源環境に関する情報を表示する例を示します。

```

switch# show environment power

```

```

Power Supply:
Voltage: 12 Volts

```

```

-----
PS  Model                Power      Power      Status
      (Watts)      (Amp)
-----
1  --                    --          --          fail/shutdown
2  N5K-PAC-1200W        1200.00    100.00      ok

```

```

Mod Model                Power      Power      Power      Power      Status
      Requested Requested  Allocated Allocated
      (Watts)      (Amp)      (Watts)      (Amp)
-----
--
1  N5K-C5020P-BF-SUP      625.20    52.10      625.20    52.10      powered-

```

```
up
2   N5K-M1600           54.00   4.50     54.00   4.50     powered-
up
3   N5K-M1008           9.96    0.83     9.96    0.83     powered-
up
```

Power Usage Summary:

```
Power Supply redundancy mode:           Redundant
Power Supply redundancy operational mode: Non-redundant
```

```
Total Power Capacity                    1200.00 W
```

```
Power reserved for Supervisor(s)        625.20 W
```

```
Power currently used by Modules          63.96 W
```

```
Total Power Available                    510.84 W
-----
```

```
switch#
```

show feature

スイッチの機能のステータスを表示するには、**show feature** コマンドを使用します。

show feature

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スイッチのすべての機能の状態を表示する例を示します。

```
switch# show feature
Feature Name      Instance  State
-----
cimserver         1        disabled
fabric-binding    1        disabled
fc-port-security  1        disabled
fcoe              1        enabled
fcsp              1        disabled
fex               1        enabled
fport-channel-trunk 1        disabled
http-server       1        enabled
interface-vlan    1        enabled
lACP              1        enabled
lldp              1        enabled
npiv              1        disabled
npv               1        disabled
port_track        1        disabled
private-vlan      1        disabled
sshServer         1        enabled
tacacs            1        enabled
telnetServer      1        enabled
udld              1        enabled
vpc               1        enabled
vtp               1        disabled
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature	スイッチの機能をイネーブルまたはディセーブルにします。

show file

ローカルメモリのファイルの内容を表示するには、**show file** コマンドを使用します。

show file [*filesystem:*] [*//server/*] [*directory*] *filename*

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注)

filesystem://server/directory/filename スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file ent-mod.lic
```

表示するファイルがディレクトリである場合は、コマンドが次のエラー メッセージを返します。

```
switch# show file bootflash:///routing-sw
/bin/showfile: /bootflash/routing-sw: Is a directory
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

show hardware internal

物理デバイス ハードウェアに関する情報を表示するには、**show hardware internal** コマンドを使用します。

show hardware internal

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、物理デバイス ハードウェアに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show hardware internal
```

関連コマンド

コマンド	説明
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。
show module	モジュールに関する情報を表示します。

show hostname

スイッチのホスト名を表示するには、**show hostname** コマンドを使用します。

show hostname

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

show switchname コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。

例

次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show hostname
switch
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show switchname	ホスト名を表示します。
switchname	スイッチのホスト名を設定します。

show incompatibility system

実行中のシステム イメージと、Cisco NX-OS ソフトウェアのダウングレード前のシステムイメージとの間の設定の互換性の問題を表示するには、**show incompatibility system** コマンドを使用します。

show incompatibility system {*filesystem:* //*server/* [*directory*] *filename*}

構文の説明

<i>filesystem:</i>	ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または volatile です。
// <i>server/</i>	サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	ロードされたソフトウェア イメージと比較するファイルの名。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

filesystem://server/directory/filename スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、設定の互換性の問題を表示する例を示します。

```
switch# show incompatibility system bootflash://sup-local/old_image.bin
```

関連コマンド

コマンド	説明
install all	キックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールします。
reload	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
show version	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

show install all

install all コマンドの動作に関連する情報を表示するには、**show install all** コマンドを使用します。

show install all {failure-reason | impact [kickstart | system] | status}

構文の説明	failure-reason	ソフトウェアをインストールできなかった理由を表示します。
	impact	ブート変数で参照されたイメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	kickstart	(任意) キックスタート ブート変数で参照されたキックスタート イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	system	(任意) キックスタート ブート変数で参照されたシステム イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	status	ソフトウェア インストール プロセスのステータスを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、インストールできなかった理由を表示する例を示します。

```
switch# show install all failure-reason
No install all failure-reason
switch#
```

次に、新しいイメージのインストールが及ぼす影響を表示する例を示します。

```
switch# show install all impact
```

次に、ソフトウェアのインストール プロセスのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show install all status
There is an on-going installation...
Enter Ctrl-C to go back to the prompt.

switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	install all	物理デバイスにソフトウェアをインストールします。
	show boot	ブート変数の設定を表示します。

show inventory

スイッチ ハードウェアの物理インベントリ情報を表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

show inventory [*fex chassis_ID*]

構文の説明

fex chassis_ID (任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。

コマンド デフォルト

すべてのハードウェア インベントリ情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

例

次に、スイッチのハードウェア インベントリに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show inventory
NAME: "Chassis", DESCR: "Nexus5020 Chassis"
PID: N5K-C5020P-BF      , VID: V04 , SN: SSI13390FZT

NAME: "Module 1", DESCR: "40x10GE/Supervisor"
PID: N5K-C5020P-BF      , VID: V04 , SN: JAF1344BHNC

NAME: "Module 2", DESCR: "6x10GE Ethernet Module"
PID: N5K-M1600          , VID: V01 , SN: JAB1228018M

NAME: "Module 3", DESCR: "8x1/2/4G FC Module"
PID: N5K-M1008          , VID: V01 , SN: JAB1231020C

NAME: "Fan 1", DESCR: "Chassis fan module"
PID: N5K-C5020-FAN      , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "Fan 3", DESCR: "Chassis fan module"
PID: N5K-C5020-FAN      , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "Fan 4", DESCR: "Chassis fan module"
PID: N5K-C5020-FAN      , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "Fan 5", DESCR: "Chassis fan module"
PID: N5K-C5020-FAN      , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "Power supply 1", DESCR: "AC power supply"
PID: N5K-PAC-1200W      , VID: V01 , SN: DTM134200L5

NAME: "Power supply 2", DESCR: "AC power supply"
```

```

PID: N5K-PAC-1200W      , VID: V01 , SN: DTM134200L4

NAME: "FEX 100 CHASSIS", DESCR: "N2K-C2148T-1GE  CHASSIS"
PID: N2K-C2148T-1GE    , VID: V01 , SN: FOX1252GQJR

NAME: "FEX 100 Module 1", DESCR: "Fabric Extender Module: 48x1GE, 4X10GE Supervisor"
PID: N2K-C2148T-1GE    , VID: V01 , SN: JAF1302ABDP

NAME: "FEX 100 Fan 1",  DESCR: "Fabric Extender Fan module"
PID: N2K-C2148-FAN     , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "FEX 100 Power Supply 1", DESCR: "Fabric Extender AC power supply"
PID: N2K-PAC-200W      , VID: V01 , SN: PAC12493LQX

NAME: "FEX 100 Power Supply 2", DESCR: "Fabric Extender AC power supply"
--More--
switch#

```

接続されているファブリック エクステンダのハードウェア インベントリ情報を表示する例を示します。

```

switch# show inventory fex 101
NAME: "FEX 100 CHASSIS", DESCR: "N2K-C2148T-1GE  CHASSIS"
PID: N2K-C2148T-1GE    , VID: V01 , SN: FOX1252GQJR

NAME: "FEX 100 Module 1", DESCR: "Fabric Extender Module: 48x1GE, 4X10GE Supervisor"
PID: N2K-C2148T-1GE    , VID: V01 , SN: JAF1302ABDP

NAME: "FEX 100 Fan 1",  DESCR: "Fabric Extender Fan module"
PID: N2K-C2148-FAN     , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "FEX 100 Power Supply 1", DESCR: "Fabric Extender AC power supply"
PID: N2K-PAC-200W      , VID: V01 , SN: PAC12493LQX

NAME: "FEX 100 Power Supply 2", DESCR: "Fabric Extender AC power supply"
PID: N5K-PAC-200W      , VID: 00V0, SN: PAC12423L1Q

switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show module	モジュールに関する情報を表示します。

show license

ライセンス情報を表示するには、**show license** コマンドを使用します。

show license [brief | file filename]

構文の説明

brief	(任意) デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示します。
file filename	(任意) 特定のライセンス ファイルの情報を表示します。

コマンド デフォルト

インストールされているライセンスに関する情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スイッチにインストールされている特定のライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license file fc5020.lic
```

次に、デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# show license brief
fcoelicense.lic
switch#
```

次に、デバイスにインストールされているすべてのライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license
fcoelicense.lic:
SERVER this_host ANY
VENDOR cisco
INCREMENT ENTERPRISE_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
  VENDOR_STRING=<LIC_SOURCE>MDS_SWIFT</LIC_SOURCE><SKU>N5020-SSK9=</SKU> \
  HOSTID=VDH=SSI13390FZT \
  NOTICE="<LicFileID>20100611101827012</LicFileID><LicLineID>1</LicLineID>
\
  <PAK></PAK>" SIGN=877DB4A06E0C
INCREMENT FC_FEATURES_PKG cisco 1.0 permanent uncounted \
  VENDOR_STRING=<LIC_SOURCE>MDS_SWIFT</LIC_SOURCE><SKU>N5020-SSK9=</SKU> \
  HOSTID=VDH=SSI13390FZT \
  NOTICE="<LicFileID>20100611101827012</LicFileID><LicLineID>2</LicLineID>
\
  <PAK></PAK>" SIGN=A075D610878C

switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

show license host-id

ライセンスに使用するスイッチ シャーシのシリアル番号（ホスト ID）を表示するには、**show license host-id** コマンドを使用します。

show license host-id

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

シリアル番号は、例に示すようにコロン（:）の後に表示される文字列全体です。

例

次に、ノードにロックされたライセンスに必要なホスト ID を表示する例を示します。

```
switch# show license host-id
License hostid: VDH=FLC12300568
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license	ライセンス情報を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

show license usage

ライセンス使用情報を表示するには、**show license usage** コマンドを使用します。

show license usage [*PACKAGE*]

構文の説明	<i>PACKAGE</i>	(任意) 指定したライセンス パッケージで使用中の、ライセンスされた機能のリストを表示します。
--------------	----------------	---

コマンドデフォルト スイッチでのライセンスの使用状況を表示します。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例 次に、現在のライセンス使用に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show license usage
Feature                               Ins  Lic  Status Expiry Date Comments
                               Count
-----
FM_SERVER_PKG                         No   -   Unused          -
ENTERPRISE_PKG                        Yes  -   Unused Never      -
FC_FEATURES_PKG                       Yes  -   In use  Never      -
```

表 1-6 に、**show license usage** コマンド出力で使用されるカラムについて説明します。

表 1-6 show license usage のカラム

カラム	説明
Feature	ライセンス パッケージの名前。
Ins	ライセンス インストール ステータス。「No」はライセンスがインストールされていないことを示し、「Yes」はライセンスがインストールされていることを示します。
Lic Count	ライセンス数。「-」は、このライセンス パッケージでカウントが使用されていないことを示します。このフィールドの数字は、機能別のライセンスの現在の使用数を示します。このフィールドはサポートされていません。
Status	ライセンス ステータス。「Unused」は、ライセンスを必要とする機能がイネーブルでないことを示します。「In use」は、1 つ以上の機能がライセンスを使用していることを示します。

表 1-6 show license usage のカラム (続き)

カラム	説明
Expiry Date	ライセンスの有効期限。ライセンスがインストールされていない場合、このフィールドはブランクです。ライセンスがインストールされている場合、このフィールドには、ライセンスの時間制限がないことを示す「Never」か、ライセンスの有効期限が表示されます。
Comments	追加情報。日数（「D」）および時間（「H」）で残り期間を表す「Grace」は、猶予期間のあるライセンスを使用していることを示し、「license missing」は、エラーが発生していることを示します。

次に、特定のライセンスで使用中の機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage FC_FEATURES_PKG
Application
-----
PFM
-----
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
install license	ライセンスをインストールします。
show license	ライセンス情報を表示します。
show license host-id	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。

show line

端末ポートのコンフィギュレーション情報を表示するには、**show line** コマンドを使用します。

show line [console [user-input-string]]

構文の説明

console	(任意) コンソール ポートの設定に関する情報だけ表示します。
user-input-string	(任意) ユーザ入力初期化ストリングを表示します。

コマンドデフォルト

端末ポートの設定に関する情報を表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.1(3)N1(1)	show line console user-input-string が追加されました。

例

次に、端末ポート設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show line
line Console:
  Speed:          115200 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       2 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015

line Aux:
  Speed:          9600 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
  Hardware Flowcontrol: ON

switch#
```

次に、コンソールポート設定に関する情報だけを表示する例を示します。

```
switch# show line console
line Console:
  Speed:          115200 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       2 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
```

■ show line

```
Modem Init-String -
  default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015

switch#
```

次に、モデムのユーザ入力初期化ストリングを表示する例を示します。

```
switch# show line console user-input-string
Console's user-input string is ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。

show module

モジュール情報を表示するには、**show module** コマンドを使用します。

show module [*module-number* | **fex** [*chassis_ID* | **all**]]

構文の説明

<i>module-number</i>	(任意) モジュール番号。有効な範囲は 1 ~ 3 です。
fex	(任意) 接続されているファブリック エクステンダ ユニットに関する情報を表示します。
<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
all	(任意) 接続されているすべてのファブリック エクステンダ ユニットに関する情報を表示します。

コマンド デフォルト

スイッチ シャーシのすべてのモジュールに関するモジュール情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

例

次に、シャーシのすべてのモジュールに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show module
Mod Ports  Module-Type                Model                        Status
-----
1      40      40x10GE/Supervisor        N5K-C5020P-BF-SUP         active *
2      6       6x10GE Ethernet Module    N5K-M1600                  ok
3      8       8x1/2/4G FC Module        N5K-M1008                  ok

Mod  Sw                Hw      World-Wide-Name(s) (WWN)
---  -
1    4.2(1)N2(1)      1.3     --
2    4.2(1)N2(1)      0.100   --
3    4.2(1)N2(1)      0.200   20:81:00:0d:ec:e7:df:40 to 20:88:00:0d:ec:e7:df:40

Mod  MAC-Address(es)                Serial-Num
---  -
1    000d.ece7.df48 to 000d.ece7.df6f  JAF1344BHNK
2    000d.ece7.df70 to 000d.ece7.df77  JAB1228018M
3    000d.ece7.df78 to 000d.ece7.df7f  JAB1231020C

switch#
```

次に、特定のモジュールの情報を表示する例を示します。

show module

```

switch# show module 2
Mod Ports  Module-Type                               Model                               Status
-----
2      6          6x10GE Ethernet Module                       N5K-M1600                           ok

Mod Sw              Hw      World-Wide-Name(s) (WWN)
-----
2      4.2(1)N2(1)      0.100  --

Mod  MAC-Address(es)                               Serial-Num
-----
2    000d.ece7.df70 to 000d.ece7.df77                JAB1228018M
switch#

```

次に、接続されているファブリック エクステンダに関する情報を表示する例を示します。

```

switch# show module fex 100
FEX Mod Ports Card Type                               Model                               Status.
-----
100 1   48      Fabric Extender 48x1GE Module                       N2K-C2148T-1GE                       present

FEX Mod Sw              Hw      World-Wide-Name(s) (WWN)
-----
100 1   4.2(1)N2(1)      1.0    --

FEX Mod  MAC-Address(es)                               Serial-Num
-----
100 1    000d.ecb1.ef00 to 000d.ecb1.ef2f                JAF1302ABDP
switch#

```

次に、接続されているすべてのファブリック エクステンダ ユニットに関する情報を表示する例を示します。

```

switch# show module fex all
FEX Mod Ports Card Type                               Model                               Status.
-----
100 1   48      Fabric Extender 48x1GE Module                       N2K-C2148T-1GE                       present
150 1   48      Fabric Extender 48x1GE + 4x10G Mod N2K-C2248TP-1GE                       present
151 1   48      Fabric Extender 48x1GE + 4x10G Mod N2K-C2248TP-1GE                       present
170 1   32      Fabric Extender 32x10G BaseT + 8x1 0                       present
171 1   32      Fabric Extender 32x10G BaseT + 8x1 0                       present
198 1   32      Fabric Extender 32x10GE + 8x10G Mo N2K-C2232PP-10GE                       present
199 1   32      Fabric Extender 32x10GE + 8x10G Mo N2K-C2232PP-10GE                       present

FEX Mod Sw              Hw      World-Wide-Name(s) (WWN)
-----
100 1   4.2(1)N2(1)      1.0    --
150 1   4.2(1)N2(1)      3.4    --
151 1   4.2(1)N2(1)      3.2    --
170 1   4.2(1)N2(1)      1.0    --
171 1   4.2(1)N2(1)      1.0    --
198 1   4.2(1)N2(1)      3.4    --
199 1   4.2(1)N2(1)      3.5    --

FEX Mod  MAC-Address(es)                               Serial-Num
-----
100 1    000d.ecb1.ef00 to 000d.ecb1.ef2f                JAF1302ABDP
150 1    000d.ecfc.a140 to 000d.ecfc.a16f                JAF1407AARL
151 1    000d.ecf4.f916 to 000d.ecf4.f945                JAF1352AHAL
170 1    68ef.bd62.1080 to 68ef.bd62.109f                JAF1417BTEM
171 1    68ef.bd62.1680 to 68ef.bd62.169f                JAF1421DMEA
198 1    000d.ecf7.d4a3 to 000d.ecf7.d4c2                JAF1352AQCH
199 1    68ef.bd61.d8c0 to 68ef.bd61.d8df                JAF1409ATAM
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

show processes

スイッチのプロセス情報を表示するには、**show processes** コマンドを使用します。

show processes [vdc vdc-number]

構文の説明

vdc vdc-number (任意) 特定の Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) のプロセス情報を表示します。Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチ上の VDC は 1 つだけです。

コマンド デフォルト

スイッチで実行中のすべてのプロセスの情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバイスのプロセス情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes
```

PID	State	PC	Start_cnt	TTY	Process
1	S	b7f9e468	1	-	init
2	S	0	1	-	ksoftirqd/0
3	S	0	1	-	desched/0
4	S	0	1	-	events/0
5	S	0	1	-	khelper
10	S	0	1	-	kthread
18	S	0	1	-	kacpid
169	S	0	1	-	kblockd/0
182	S	0	1	-	khubd
247	S	0	1	-	pdflush
248	S	0	1	-	pdflush
249	S	0	1	-	kswapd0
250	S	0	1	-	aio/0
251	S	0	1	-	SerrLogKthread
809	S	0	1	-	kide/0
812	S	0	1	-	ata/0
817	S	0	1	-	mtdblockd
845	S	0	1	-	scsi_ah_0
846	S	0	1	-	usb-storage
1362	S	0	1	-	kjournald
1370	S	0	1	-	kjournald
2127	S	0	1	-	jffs2_gcd_mtd2
2184	S	0	1	-	kjournald
2644	S	b7f8718e	1	-	portmap
2653	S	0	1	-	nfsd
2654	S	0	1	-	nfsd
2655	S	0	1	-	nfsd

```

2656      S      0      1      -  nfsd
2657      S      0      1      -  nfsd
2658      S      0      1      -  nfsd
2659      S      0      1      -  nfsd
2660      S      0      1      -  nfsd
2661      S      0      1      -  lockd
2662      S      0      1      -  rpciod
2667      S  b7f89468      1      -  rpc.mountd
2673      S  b7f89468      1      -  rpc.statd
2700      S  b7df3468      1      -  sysmgr
3344      S      0      1      -  mping-thread
3511      S      0      1      -  insmod
3892      S  b7f4b468      1      -  xinetd
3893      S  b7f89468      1      -  tftpd
--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。
show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes cpu

デバイス上のプロセスの CPU 使用率情報を表示するには、**show processes cpu** コマンドを使用します。

show processes cpu

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ローカル デバイスのすべてのプロセスの情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、プロセスの CPU 使用率情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes cpu
```

PID	Runtime (ms)	Invoked	uSecs	1Sec	Process
1	1802	22973	78	0.0%	init
2	440	44555	9	0.0%	ksoftirqd/0
3	79	17021	4	0.0%	desched/0
4	2097	92976	22	0.0%	events/0
5	71	3224	22	0.0%	khelper
10	0	18	20	0.0%	kthread
18	0	2	2	0.0%	kacpid
169	5	669	8	0.0%	kblockd/0
182	121	42	2885	0.0%	khubd
247	0	2	1	0.0%	pdflush
248	326	20427	15	0.0%	pdflush
249	0	1	4	0.0%	kswapd0
250	0	2	1	0.0%	aio/0
251	0	1	1	0.0%	SerrLogKthread
809	0	2	1	0.0%	kide/0
812	0	2	1	0.0%	ata/0
817	0	1	3	0.0%	mtdblockd
845	0	1	6	0.0%	scsi_ah_0
846	132	36789	3	0.0%	usb-storage
1362	0	1	8	0.0%	kjournald
1370	0	1	5	0.0%	kjournald
2127	367	56	6560	0.0%	jffs2_gcd_mtd2
2184	20	743	27	0.0%	kjournald
2644	0	21	38	0.0%	portmap
2653	0	42	14	0.0%	nfsd
2654	0	30	2	0.0%	nfsd
2655	0	30	2	0.0%	nfsd
2656	0	30	2	0.0%	nfsd
2657	0	30	2	0.0%	nfsd


```

2658          0          30          2    0.0%  nfsd
2659          0          32          4    0.0%  nfsd
2660          0          32          3    0.0%  nfsd
2661          0           2         33    0.0%  lockd
2662          0           1           6    0.0%  rpciod
2667          0           1          71    0.0%  rpc.mountd
2673          2           5         571    0.0%  rpc.statd
2700         152        251559          0    0.0%  sysmgr
3344          0           1          22    0.0%  mping-thread
3511        1825        10196         179    0.0%  insmod
3892          12           3        4105    0.0%  xinetd
3893           3           4         843    0.0%  tftpd
--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。
show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes log

プロセス ログの内容を表示するには、**show processes log** コマンドを使用します。

show processes log [details | pid process-id]

構文の説明

details	(任意) プロセス ログにある詳細情報を表示します。
pid process-id	(任意) 特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示します。有効なプロセス ID の範囲は 1 ~ 2147483647 です。

コマンド デフォルト

デバイス上のすべてのプロセスの情報の要約を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、プロセス ログにある情報の要約を表示する例を示します。

```
switch# show processes log
Process          PID      Normal-exit  Stack  Core  Log-create-time
-----
afm              2948      N            Y      N     Fri Dec  4 00:36:19 2009
afm              2997      N            Y      N     Tue Dec 15 04:09:57 2009
afm              3871      N            N      N     Sat Mar 20 18:22:14 2010
afm              3875      N            N      N     Fri Mar 26 08:45:06 2010
afm              3877      N            Y      N     Mon Mar 22 03:56:38 2010
afm              3886      N            N      N     Fri Mar 26 08:45:06 2010
afm              3887      N            N      N     Sat Mar 20 18:22:15 2010
afm              3889      N            N      N     Sun Mar 21 06:15:00 2010
afm              3890      N            N      N     Sat Mar 20 18:22:16 2010
afm              3895      N            N      N     Fri Mar 26 08:45:08 2010
afm              3898      N            N      N     Fri Mar 26 08:45:08 2010
afm              3904      N            Y      N     Mon Apr  5 19:28:56 2010
afm              3915      N            N      N     Sun Mar 21 06:15:01 2010
afm              3918      N            Y      N     Mon Mar 22 03:43:42 2010
afm              3919      N            N      N     Sun Mar 21 06:15:03 2010
afm              3922      N            Y      N     Mon Mar 22 03:56:44 2010
afm              3930      N            N      N     Sun Mar 21 06:15:03 2010
afm              3942      N            Y      N     Wed Apr  7 18:47:39 2010
afm              3943      N            Y      N     Tue Apr  6 00:09:46 2010
afm              3950      N            Y      N     Mon Mar 22 03:43:45 2010
afm              3962      N            Y      N     Mon Mar 22 03:43:47 2010
afm              3967      N            Y      N     Tue Apr  6 21:57:55 2010
afm              4054      N            Y      N     Tue Mar 23 07:30:21 2010
afm              4220      N            N      N     Fri Mar 26 08:45:34 2010
afm              4224      N            N      N     Sat Mar 20 18:22:45 2010
--More--
switch#
```

次に、プロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log details
=====
Service: afm
Description: Acl manager Daemon

Started at Fri Dec  4 00:36:05 2009 (209115 us)
Stopped at Fri Dec  4 00:36:19 2009 (274038 us)
Uptime: 14 seconds

Start type: SRV_OPTION_RESTART_STATEFUL (24)
Death reason: SYSMGR_DEATH_REASON_FAILURE_SIGNAL (2)
Last heartbeat 0.00 secs ago
RLIMIT_AS: 272490099
System image name: n5000-uk9.4.2.1.N1.0.173.bin
System image version: 4.2(1)N1(0.173) S0

PID: 2948
Exit code: signal 11 (core dumped)

CWD: /var/sysmgr/work

Virtual Memory:

CODE      08048000 - 081467A4
DATA      08147000 - 0816A968
BRK       08192000 - 085E3000
STACK     BFFFFFFA90
TOTAL     99840 KB

Register Set:

EBX B6FA2178      ECX 00000001      EDX 0836EF98
ESI 0000000C      EDI 0836F040      EBP BFFFEB48
EAX BFFFEB70      XDS C010007B      XES 0000007B
EAX FFFFFFFF (orig)  EIP 00000000      XCS 00000073
EFL 00010296      ESP BFFFEB1C      XSS 0000007B

Stack: 3956 bytes. ESP BFFFEB1C, TOP BFFFFFFA90

0xBFFFEB1C: B6F3B1EA BFFFEB70 B6568860 00000001 ....p...`V.....
0xBFFFEB2C: B6F3B1CE 00000000 B6FA2294 0000024F .....".O...
0xBFFFEB3C: 00000007 0000000C 00000000 BFFFEBD8 .....
0xBFFFEB4C: 08107B82 0836F040 BFFFEB70 BFFFEB68 {...@.6.p...h...
0xBFFFEB5C: BFFFEB6C B6F71C64 00000000 BFFFEB88 l...d.....
0xBFFFEB6C: B6F4F72A 00000000 00000008 B6F75D71 *.....q]...
--More--
switch#
```

次に、特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log pid 2948
=====
Service: afm
Description: Acl manager Daemon

Started at Fri Dec  4 00:36:05 2009 (209115 us)
Stopped at Fri Dec  4 00:36:19 2009 (274038 us)
Uptime: 14 seconds

Start type: SRV_OPTION_RESTART_STATEFUL (24)
Death reason: SYSMGR_DEATH_REASON_FAILURE_SIGNAL (2)
Last heartbeat 0.00 secs ago
```

■ show processes log

```

RLIMIT_AS: 272490099
System image name: n5000-uk9.4.2.1.N1.0.173.bin
System image version: 4.2(1)N1(0.173) S0

PID: 2948
Exit code: signal 11 (core dumped)

CWD: /var/sysmgr/work

Virtual Memory:

CODE      08048000 - 081467A4
DATA      08147000 - 0816A968
BRK       08192000 - 085E3000
STACK     BFFFFFFA90
TOTAL     99840 KB

Register Set:

EBX B6FA2178      ECX 00000001      EDX 0836EF98
ESI 0000000C      EDI 0836F040      EBP BFFFFFFE48
EAX BFFFFFFE70    XDS C010007B      XES 0000007B
EAX FFFFFFFF (orig) EIP 00000000      XCS 00000073
EFL 00010296      ESP BFFFFFFE1C    XSS 0000007B

Stack: 3956 bytes. ESP BFFFFFFE1C, TOP BFFFFFFA90

0xBFFFFFFE1C: B6F3B1EA BFFFFFFE70 B6568860 00000001 ....p...`V.....
0xBFFFFFFE2C: B6F3B1CE 00000000 B6FA2294 0000024F .....".O...
0xBFFFFFFE3C: 00000007 0000000C 00000000 BFFFFFFE1C .....
0xBFFFFFFE4C: 08107B82 0836F040 BFFFFFFE70 BFFFFFFE68 .{..@.6.p...h...
0xBFFFFFFE5C: BFFFFFFE6C B6F71C64 00000000 BFFFFFFE88 l...d.....
0xBFFFFFFE6C: B6F4F72A 00000000 00000008 B6F75D71 *.....q]..
--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes memory	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

show processes memory

プロセスのメモリ割り当て情報を表示するには、**show processes memory** コマンドを使用します。

show processes memory [shared [detail]]

構文の説明

shared	(任意) 共有メモリの割り当てを表示します。
detail	(任意) 共有メモリを、デフォルトのキロバイト単位でなく、バイト単位で表示します。

コマンドデフォルト

プロセスに割り当てられたメモリを表示します。

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、プロセスのメモリ割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory
```

```

PID      MemAlloc StkSize  RSSMem  LibMem  StackBase/Ptr  Process
-----
 1      147456   86016   495616  1126400 bffffea0/bffff990  init
 2           0         0         0         0         0/0  ksoftirqd/0
 3           0         0         0         0         0/0  desched/0
 4           0         0         0         0         0/0  events/0
 5           0         0         0         0         0/0  khelper
10           0         0         0         0         0/0  kthread
18           0         0         0         0         0/0  kacpid
169         0         0         0         0         0/0  kblockd/0
182         0         0         0         0         0/0  khubd
247         0         0         0         0         0/0  pdflush
248         0         0         0         0         0/0  pdflush
249         0         0         0         0         0/0  kswapd0
250         0         0         0         0         0/0  aio/0
251         0         0         0         0         0/0  SerrLogKthread
809         0         0         0         0         0/0  kide/0
812         0         0         0         0         0/0  ata/0
817         0         0         0         0         0/0  mtblockd
845         0         0         0         0         0/0  scsi_eh_0
846         0         0         0         0         0/0  usb-storage
1362        0         0         0         0         0/0  kjournald
1370        0         0         0         0         0/0  kjournald
2127        0         0         0         0         0/0  jffs2_gcd_mtd2
2184        0         0         0         0         0/0  kjournald
2644      155648   86016   438272  1216512 bffffdf0/bffffcf0  portmap
--More--
switch#
```

■ show processes memory

次に、プロセスの共有メモリの割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory shared
Component          Shared Memory      Size      Used  Available  Reference
                   Address      (kbytes)  (kbytes)  (kbytes)  Count
smm                0X60000000        1024         3       1021        21
cli                0X60110000       30720*      13982    16738         6
npacl              0X61F20000        4096*         1       4095         1
u6rib-ufdm        0X62330000         320*        188       132         1
am                0X62390000        1024*        13       1011         4
urib              0X624A0000       32768*       700     32068        11
urib-redis        0X644B0000       4096*         0       4096        11
icmpv6            0X648C0000        1024         0       1024         1
u6rib             0X649D0000      16384*       665    15719         5
urib-ufdm        0X659E0000       2048*         0       2048         1
ip                0X65BF0000       2048         68     1980        10
u6rib-notify      0X65E00000       2048*       795     1253         5
ipv6              0X66010000        1024         59       965         3
igmp              0X66120000        1024         0       1024         1
Shared memory totals - Size: 98 MB, Used: 17 MB, Available: 82 MB
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。
show processes cpu	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
show processes log	プロセス ログの内容を表示します。

show running-config

実行コンフィギュレーションを表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

show running-config [all]

構文の説明	all (任意) デフォルトの情報および設定された情報をすべて表示します。				
コマンドデフォルト	設定されている情報だけを表示します。				
コマンドモード	EXEC モード				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(0)N1(1a)</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。				

例 次に、ユーザが実行コンフィギュレーションに加えた変更を表示する例を示します。

```
switch# show running-config

!Command: show running-config
!Time: Tue Jul 13 06:05:42 2010

version 4.2(1)N2(1)
feature fcoe
feature telnet
feature tacacs+
feature udld
feature interface-vlan
feature lacp
feature vpc
feature lldp
feature fex
snmp-server enable traps entity fru
role name default-role
  description This is a system defined role and applies to all users.
  rule 5 permit command feature environment
  rule 4 permit command feature hardware
  rule 3 permit command feature module
  rule 2 permit command feature snmp
  rule 1 permit command feature system
role name praveena
username admin password 5 $1$VrQsB2KX$4jkUcx3sXWU8lhI1mlwLa/ role network-admin
username oregon password 5 $1$p3VJ0/BY$Kp22A08NeqCQ0asxUKXq91 role network-oper
ator
no password strength-check
ip domain-lookup
ip host switch 192.168.2.215
ip host BEND-1 192.168.2.215
tacacs-server host 192.168.2.54 key 7 "wawy1234"
aaa group server tacacs+ t1
  server 192.168.2.54
```

■ show running-config

```

    use-vrf management
aaa group server tacacs+ tacacs
radius-server host 192.168.2.5 key 7 "KkwyCet" authentication accounting
aaa group server radius r1
    server 192.168.2.5
    use-vrf management
hostname switch
logging event link-status default
errdisable recovery interval 30
no errdisable detect cause link-flap
errdisable recovery cause pause-rate-limit
--More--
switch#

```

次に、デフォルト値を含む、実行コンフィギュレーション全体を表示する例を示します。

```
switch# show running-config all
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

show running-config diff

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示するには、**show running-config diff** コマンドを使用します。

show running-config diff

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

表 1-7 では、コマンド出力で使用される表記法を説明しています。

表 1-7 show running-config diff の表記法

表記法	説明
***** --- line1, line2 ---- *** line1, line2 ****	差異を含む行の範囲を示します。アスタリスク (*) が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行で、ダッシュ (-) が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行です。
+ text	この行が、実行コンフィギュレーションにはあるが、スタートアップ コンフィギュレーションにはないことを示します。
- text	この行が、実行コンフィギュレーションにはないが、スタートアップ コンフィギュレーションにはあることを示します。
! text	この行が両方のコンフィギュレーションにあるが、順番が異なっていることを示します。

例

次に、実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションとの差異を表示する例を示します。

```
switch# show running-config diff
*** Startup-config
--- Running-config
*****
*** 1874,1883 ****
--- 1873,1883 ----
    system cores tftp://192.168.2.5/tftpboot/ vrf management
    vsan database
        vsan 700
    cfs eth distribute
```

■ show running-config diff

```

fcdomain fcid database
+ vsan 700 wwn 10:00:00:00:00:15:43:e8 fcid 0x350000 dynamic
  vsan 1 wwn 20:44:00:0d:ec:b0:fc:40 fcid 0x780000 dynamic
  vsan 1 wwn 20:43:00:0d:ec:b0:fc:40 fcid 0x780001 dynamic
  vsan 1 wwn 24:01:00:0d:ec:b0:fc:40 fcid 0x780002 dynamic

interface Vlan1
*****
*** 2089,2103 ***
--- 2089,2113 ----
  priority-flow-control mode on
  speed 1000
  flowcontrol receive on
  service-policy type qos input 1

+ interface port-channel1932
+ shutdown
+ switchport mode trunk
+ switchport trunk allowed vlan 600
+ spanning-tree bpdupfilter enable
+ speed 10000
+
interface vfc1

interface vfc199
  bind mac-address 00:00:11:11:22:22
+ fcoe fcf-priority 1
  no shutdown
+ vsan database
+ vsan 700 interface vfc199

interface fc3/1

interface fc3/2

--More--
switch#

```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

show sprom

スイッチの Serial PROM (SPROM; シリアル PROM) の内容を表示するには、**show sprom** コマンドを使用します。

```
show sprom {all | backplane | fex {chassis_ID {all | backplane | powersupply ps-num} |
all} | module module-number | powersupply ps-num | sup}
```

構文の説明

all	物理デバイス上にあるすべてのコンポーネントの SPROM の内容を表示します。
backplane	バックボーン の SPROM の内容を表示します。
fex	接続されているファブリック エクステンダ ユニットに関する情報を表示します。
<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
module module-number	I/O モジュールの SPROM の内容を表示します。有効なモジュール番号の範囲は 1 ~ 3 です。
powersupply ps-num	電源の SPROM の内容を表示します。有効な電源番号は 1 または 2 です
sup	アクティブなスーパーバイザ モジュールの SPROM の内容を表示します。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

使用上のガイドライン

スイッチの SPROM には、シリアル番号、部品番号、リビジョン番号を含む、ハードウェアの詳細情報が含まれます。システム コンポーネントの問題を報告する必要がある場合は、**show sprom** コマンドを使用してシリアル番号情報を抽出できます。

例

次に、物理デバイス上のすべてのコンポーネントの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom all
DISPLAY backplane sprom contents:
Common block:
Block Signature : 0xabab
Block Version   : 3
Block Length    : 160
Block Checksum  : 0x17d7
EEPROM Size     : 65535
Block Count     : 4
```

■ show sprom

```

FRU Major Type : 0x6001
FRU Minor Type : 0x0
OEM String      : Cisco Systems, Inc.
Product Number  : N5K-C5020P-BF
Serial Number   : SSI13390FZT
Part Number     : 68-3301-06
Part Revision   : A0
Mfg Deviation   : 0
H/W Version    : 0.0
Mfg Bits       : 0
Engineer Use    : 0
snmpOID        : 9.12.3.1.3.719.0.0
Power Consump  : 0
RMA Code       : 0-0-0-0
CLEI Code      : COMXG00ARC
VID            : V04
Chassis specific block:
Block Signature : 0x6001
Block Version   : 3
Block Length    : 39
Block Checksum  : 0x3ca
Feature Bits    : 0x0
HW Changes Bits : 0x0
Stackmib OID    : 0
MAC Addresses   : 00-0d-ec-e7-df-40
Number of MACs  : 64
OEM Enterprise  : 0
OEM MIB Offset  : 0
MAX Connector Power: 0
WWN software-module specific block:
Block Signature : 0x6005
Block Version   : 1
Block Length    : 0
Block Checksum  : 0x20dd
wwn usage bits:
00 00 00 00 00 00 00 00
--More--
switch#

```

次に、バックプレーンの SPROM 情報を表示する例を示します。

```

switch# show sprom backplane
DISPLAY backplane sprom contents:
Common block:
Block Signature : 0xabab
Block Version   : 3
Block Length    : 160
Block Checksum  : 0x17d7
EEPROM Size     : 65535
Block Count     : 4
FRU Major Type  : 0x6001
FRU Minor Type  : 0x0
OEM String      : Cisco Systems, Inc.
Product Number  : N5K-C5020P-BF
Serial Number   : SSI13390FZT
Part Number     : 68-3301-06
Part Revision   : A0
Mfg Deviation   : 0
H/W Version    : 0.0
Mfg Bits       : 0
Engineer Use    : 0
snmpOID        : 9.12.3.1.3.719.0.0
Power Consump  : 0
RMA Code       : 0-0-0-0

```

```
CLEI Code       : COMXG00ARC
VID             : V04
Chassis specific block:
Block Signature : 0x6001
Block Version   : 3
--More--
switch#
```

次に、接続されているファブリック エクステンダに関する SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom fex 101 all
```

関連コマンド

コマンド	説明
show hardware internal	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show startup-config

!Command: show startup-config
!Time: Tue Jul 13 06:14:51 2010
!Startup config saved at: Fri Jul  9 23:19:25 2010

version 4.2(1)N2(1)
feature fcoe
feature telnet
feature tacacs+
feature udld
feature interface-vlan
feature lacp
feature vpc
feature lldp
feature fex
snmp-server enable traps entity fru
role name default-role
  description This is a system defined role and applies to all users.
  rule 5 permit command feature environment
  rule 4 permit command feature hardware
  rule 3 permit command feature module
  rule 2 permit command feature snmp
  rule 1 permit command feature system
role name praveena
username admin password 5 $1$VrQsB2KX$4jkUcx3sXWU8lhI1mlwLa/  role network-admin
username oregon password 5 $1$p3VJ0/BY$Kp22A08NeqCQ0asxUKXq91  role network-oper
ator
--More--
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。
show running-config diff	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。

show switchname

デバイスのホスト名を表示するには、**show switchname** コマンドを使用します。

show switchname

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

show hostname コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。

例

次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show switchname
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show hostname	ホスト名を表示します。
switchname	スイッチのホスト名を設定します。

show system cores

コア ファイル名を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

show system cores

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

システム コア ファイル名を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。

例

次に、システム コア ファイルの宛先情報を表示する例を示します。

```
switch# show system cores
Cores are transferred to tftp://192.168.2.5/tftpboot/
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
system cores	システム コア ファイル名を設定します。

show system reset-reason

スイッチのリセット履歴を表示するには、**show system reset-reason** コマンドを使用します。

show system reset-reason [fex chassis_ID]

構文の説明	fex chassis_ID (任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。						
コマンド デフォルト	なし						
コマンド モード	EXEC モード						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(0)N1(1a)</td> <td>このコマンドが追加されました。</td> </tr> <tr> <td>4.0(1a)N2(1)</td> <td>このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。	4.0(1a)N2(1)	このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。
リリース	変更内容						
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。						
4.0(1a)N2(1)	このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。						

例

次に、スイッチのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason
----- reset reason for Supervisor-module 1 (from Supervisor in slot 1) ---
1) No time
   Reason: Unknown
   Service:
   Version: 4.2(1)N2(1)

2) No time
   Reason: Unknown
   Service:
   Version: 4.2(1)N2(1)

3) At 543557 usecs after Fri Jul  9 18:20:45 2010
   Reason: Reset due to upgrade
   Service:
   Version: 4.2(1)N1(1)

4) At 572283 usecs after Fri Jul  9 05:12:27 2010
   Reason: Reset due to upgrade
   Service:
   Version: 4.2(1)N2(1)

switch#
```

接続されているファブリック エクステンダのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason fex 100
----- reset reason for FEX 100 ---

1) At 0 usecs after Unknown time
```

```
Reset Reason: Unknown (0)
Service (Additional Info):
Image Version: 4.2(1)N2(1)

2) At 0 usecs after Unknown time
Reset Reason: Unknown (0)
Service (Additional Info):
Image Version: 4.2(1)N2(1)

3) At 713709 usecs after Fri Jul 9 18:36:32 2010
Reset Reason: Reset due to upgrade (88)
Service (Additional Info): Reset due to upgrade
Image Version: 4.2(1)N1(1)

4) At 702748 usecs after Fri Jul 9 05:27:06 2010
Reset Reason: Reset due to upgrade (88)
Service (Additional Info): Reset due to upgrade
Image Version: 4.2(1)N2(1)

switch#
```

show system resources

システム リソースを表示するには、**show system resources** コマンドを使用します。

show system resources

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N2(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、スイッチのシステム リソースを表示する例を示します。

```
switch(config)# show system resources
```

関連コマンド

コマンド	説明
show processes cpu	デバイスのプロセスに対する CPU 使用率の情報を表示します。

show system uptime

最後にシステムを再起動した後に経過した時間を表示するには、**show system uptime** コマンドを使用します。

show system uptime

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、最後にシステムを再起動した後に経過した時間を表示する例を示します。

```
switch# show system uptime
System start time:      Mon Jul 12 01:37:08 2010
System uptime:         1 days, 4 hours, 42 minutes, 19 seconds
Kernel uptime:         1 days, 4 hours, 44 minutes, 19 seconds
Active supervisor uptime: 1 days, 4 hours, 42 minutes, 19 seconds
switch#
```

show tech-support

シスコ テクニカル サポートの情報を表示するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support [brief | commands | feature]

構文の説明

brief	(任意) デバイスのステータスに関する情報だけを表示します。
commands	(任意) show tech-support コマンドによって実行されるコマンドの完全なリストを表示します。
<i>feature</i>	(任意) 特定の機能名を指定します。機能のリストを表示するには、Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) 状況依存ヘルプ (show tech-support ? など) を使用します。

コマンド デフォルト

すべての機能の情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

show tech-support コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモート ファイル システムで、この出力をファイルにリダイレクトします (たとえば、**show tech-support > filename**)。

リダイレクトには、次のいずれかの方法を使用できます。

- **> filename** : 出力をファイルにリダイレクトします。
- **>> filename** : 出力をファイルに、アペンド モードでリダイレクトします。

例

次に、テクニカル サポートの情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support
---- show tech-support ----
`show switchname`
switch
`show system uptime`
System start time:      Mon Jul 12 01:37:08 2010
System uptime:         1 days, 4 hours, 42 minutes, 53 seconds
Kernel uptime:         1 days, 4 hours, 44 minutes, 54 seconds
Active supervisor uptime: 1 days, 4 hours, 42 minutes, 53 seconds
`show interface mgmt0`
mgmt0 is up
  Hardware: GigabitEthernet, address: 000d.ece7.df40 (bia 000d.ece7.df40)
  Internet Address is 192.168.1.215/24
  MTU 1500 bytes, BW 1000000 Kbit, DLY 10 usec,
    reliability 255/255, txload 1/255, rxload 1/255
  Encapsulation ARPA
```

```

full-duplex, 1000 Mb/s
1 minute input rate 5408 bits/sec, 4 packets/sec
1 minute output rate 1320 bits/sec, 1 packets/sec
Rx
 465934 input packets 311703 unicast packets 73820 multicast packets
 80411 broadcast packets 250277048 bytes
Tx
 158490 output packets 155374 unicast packets 1725 multicast packets
 1391 broadcast packets 13184030 bytes

`show system resources`
Load average:  1 minute: 2.28   5 minutes: 1.77   15 minutes: 1.30
--More--
switch#

```

次に、テクニカル サポートの情報をファイルにリダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > bootflash:TechSupport.txt
```

次に、スイッチの簡単なテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```

switch# show tech-support brief
Switch Name           : switch
Switch Type           : 40x10GE/Supervisor
Kickstart Image       : 4.2(1)N2(1) bootflash:/sanity-kickstart
System Image          : 4.2(1)N2(1) bootflash:/sanity-system
IP Address/Mask       : 192.168.1.215/24
No of VSANs           : 2
Configured VSANs     : 1,700

VSAN 1:  name:VSAN0001, state:active, interop mode:default
        domain id:0x78(120), WWN:20:01:00:0d:ec:e7:df:41 [Principal]
        active-zone:<NONE>, default-zone:deny

VSAN 700: name:VSAN0700, state:active, interop mode:default
        domain id:0x35(53), WWN:22:bc:00:0d:ec:e7:df:41 [Principal]
        active-zone:<NONE>, default-zone:permit

```

```

-----
Interface  Vsan   Admin  Admin  Status          SFP   Oper  Oper  Port
          Mode   Trunk  Mode
          Mode
-----
fc3/1      1      auto   on     sfpAbsent       --    --    --    --
fc3/2      1      auto   on     sfpAbsent       --    --    --    --
fc3/3      1      auto   on     down            swl   --    --    --
fc3/4      1      auto   on     down            swl   --    --    --
fc3/5      1      auto   on     sfpAbsent       --    --    --    --
--More--
switch#

```

次に、特定の機能のテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```

switch# show tech-support aaa
`show running-config aaa all`

!Command: show running-config aaa all
!Time: Tue Jul 13 06:23:49 2010

version 4.2(1)N2(1)
aaa authentication login default local
aaa authorization config-commands default local
aaa authorization commands default local
aaa accounting default local

```

■ show tech-support

```
aaa user default-role
no aaa authentication login error-enable
no aaa authentication login mschap enable
no aaa authentication login mschapv2 enable
no aaa authentication login ascii-authentication
no radius-server directed-request
no tacacs-server directed-request

`show system internal aaa event-history msgs`
1) Event:E_MTS_RX, length:60, at 932934 usecs after Tue Jul 13 06:23:49 2010
   [REQ] Opc:MTS_OPC_SDWRAP_DEBUG_DUMP(1530), Id:0x011968A2, Ret:SUCCESS
   Src:0x00000101/7389, Dst:0x00000101/111, Flags:None
   HA_SEQNO:0X00000000, RRtoken:0x011968A2, Sync:UNKNOWN, Payloadsize:216
   Payload:
   0x0000:  01 00 2f 74 6d 70 2f 64 62 67 64 75 6d 70 31 39

--More--
switch#
```

次に、テクニカル サポート情報を生成するために使用するコマンドを表示する例を示します。

```
switch# show tech-support commands
```


show terminal

セッションの端末設定に関する情報を表示するには、**show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、セッションの端末設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show terminal
TTY: /dev/pts/1 Type: "ansi"
Length: 29 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 0 minutes
Event Manager CLI event bypass: no
Redirection mode: ascii
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
terminal length	セッションの端末表示長を設定します。
terminal session-timeout	セッションの端末非アクティブセッション タイムアウトを設定します。
terminal type	セッションの端末タイプを設定します。
terminal width	セッションの端末表示幅を設定します。

show version

ソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

show version [*fex chassis_ID* | *image filename*]

構文の説明

fex chassis_ID	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。
image filename	(任意) システム イメージ ファイルまたはキックスタート イメージ ファイルのバージョン情報を表示します。

コマンド デフォルト

実行中のキックスタート イメージおよびシステム イメージのソフトウェア バージョン情報を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
4.0(1a)N2(1)	このコマンドはファブリック エクステンダをサポートするように変更されました。

例

次に、デバイスで実行中の、キックスタート イメージおよびシステム イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2010, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained herein are owned by
other third parties and are used and distributed under license.
Some parts of this software are covered under the GNU Public
License. A copy of the license is available at
http://www.gnu.org/licenses/gpl.html.

Software
  BIOS:          version 1.3.0
  loader:        version N/A
  kickstart:     version 4.2(1)N2(1)
  system:        version 4.2(1)N2(1)
  power-seq:     version v1.2
  BIOS compile time:      09/08/09
  kickstart image file is: bootflash:/sanity-kickstart
  kickstart compile time: 7/28/2010 11:00:00 [07/07/2010 22:20:39]
  system image file is:   bootflash:/sanity-system
  system compile time:    7/28/2010 11:00:00 [07/07/2010 23:47:55]

Hardware
  cisco Nexus5020 Chassis ("40x10GE/Supervisor")
```

```
Intel(R) Xeon(R) CPU          with 2074288 kB of memory.  
Processor Board ID JAF1344BHNK
```

```
Device name: NEXUS5K-1  
bootflash:    1003520 kB
```

```
Kernel uptime is 0 day(s), 9 hour(s), 9 minute(s), 7 second(s)
```

```
Last reset  
Reason: Unknown  
System version: 4.2(1)N2(1)  
Service:
```

```
plugin  
Core Plugin, Ethernet Plugin, Fc Plugin  
switch#
```

接続されているファブリック エクステンダのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version fex 100  
Software  
  Bootloader version:      1.12  
  System boot mode:       primary  
  System image version:    4.2(1)N2(1) [build 4.2(1)N2(1)]  
  
Hardware  
  Module:                  Fabric Extender 48x1GE Module  
  CPU:                     Motorola, e300c1  
  Serial number:          JAF1302ABDP  
  Bootflash:              locked
```

```
Kernel uptime is 0 day(s), 9 hour(s), 9 minutes(s), 16 second(s)
```

```
Last reset at Fri Jul 02 04:27:04 2010  
Reason: Reset Requested by CLI command reload  
Service: Reload requested by supervisor  
switch#
```

sleep

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) が、プロンプトを表示する前に一時停止するよう設定するには、**sleep** コマンドを使用します。

sleep *seconds*

構文の説明

<i>seconds</i>	秒数。有効な範囲は 0 ~ 2147483647 です。
----------------	------------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、スクリプトの実行を遅らせることができます。

例

次に、プロンプトを表示する前に CLI を 5 秒間、一時停止させる例を示します。

```
switch# sleep 5
```

関連コマンド

コマンド	説明
run-script	コマンドスクリプトを実行します。

speed

コンソール ポートの送受信速度を設定するには、**speed** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

speed *speed*

no speed *speed*

構文の説明	<i>speed</i>	速度をビット/秒単位で指定します。有効な速度は 300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600 または 115200 です。
--------------	--------------	--

コマンド デフォルト	デフォルトのコンソール ポート速度は 9600 ビット/秒単位です。
-------------------	------------------------------------

コマンド モード	端末ライン コンフィギュレーション モード
-----------------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。
-------------------	--

例	次に、コンソール ポートの速度を設定する例を示します。
----------	-----------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# speed 57600
```

次に、コンソール ポートのデフォルトの速度に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no speed 57600
```

関連コマンド	コマンド	説明
	line console	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
	show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

stopbits

コンソール ポートのストップ ビットを設定するには、**stopbits** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

stopbits {1 | 2}

no stopbits {1 | 2}

構文の説明

1	1 ストップ ビットを指定します。
2	2 ストップ ビットを指定します。

コマンド デフォルト

1 ストップ ビット

コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。

例

次に、コンソール ポートのストップ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# stopbits 2
```

次に、コンソール ポートのストップ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no stopbits 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
line console	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config	実行コンフィギュレーションを表示します。

switchname

デバイスのホスト名を設定するには、**switchname** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchname *name*

no switchname

構文の説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名。この名前は、最大 32 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトのホスト名は「switch」です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

switchname コマンドは、**hostname** コマンドと同じ機能を実行します。

例

次に、Cisco Nexus 5000 シリーズ スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# switchname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no switchname
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
hostname	スイッチのホスト名を設定します。
show hostname	スイッチのホスト名を表示します。
show switchname	スイッチのホスト名を表示します。

system cores

システム コアの宛先を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system cores tftp:ftp_URL [vrf management]

no system cores

構文の説明

tftp:	TFTP サーバを指定します。
<i>ftp_URL</i>	宛先のファイル システムおよびファイルの URL を指定します。次の形式を使用します。 <i>[/server[:port]][/path/]filename</i>
vrf management	(任意) 管理 Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を使用するよう指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コア ファイルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system cores tftp://serverA:69/core_file
```

次に、システム コア ロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system cores
```

関連コマンド

コマンド	説明
show system cores	コア ファイル名を表示します。

system startup-config unlock

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを解除するには、**system startup-config unlock** コマンドを使用します。

system startup-config unlock *process-id*

構文の説明	<i>process-id</i>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルをロックしたプロセスの ID。
-------	-------------------	---

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを表示するには、**show system internal sysmgr startup-config locks** コマンドを使用します。

例 次に、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを解除する例を示します。
switch# **system startup-config unlock 10**

tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem: [//server/]] [directory].filename [lines]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash 、 modflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (/) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	表示するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>lines</i>	(任意) 表示する行数。有効な範囲は 0 ~ 80 です。



(注) *filesystem://server/directory/filename* スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

末尾の 10 行を表示します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
cd	現在の作業ディレクトリを変更します。
copy	ファイルをコピーします。
dir	ディレクトリの内容を表示します。
pwd	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

terminal length

現在のセッションの端末画面で出力が一時停止する前に表示する出力行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal length lines

terminal no length

構文の説明

<i>lines</i>	表示する行数。有効な範囲は 0 ~ 511 です。出力の表示中に一時停止しないようにするには 0 を指定します。
--------------	--

コマンド デフォルト

コンソールの初期デフォルト値は 0 (出力を一時停止しない) です。仮想ターミナルセッションの初期デフォルト値はクライアント ソフトウェアにより定義されます。**no** 形式のデフォルト値は 24 行です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

セッションは、**terminal length** で設定された数の行を表示した後に一時停止します。次の行画面を表示するにはスペースバーを押します。または、Enter キーを押すと、次の行が表示されます。コマンドプロンプトに戻るには、Ctrl+C を押します。

端末の行数の設定は、現在のセッションだけに適用されます。

例

次に、一時停止する前に端末に表示されるコマンド出力の行数を設定する例を示します。

```
switch# terminal length 28
```

次に、デフォルトの行数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no length
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	ターミナルセッションの設定を表示します。

terminal session-timeout

現在のセッションの端末無活動タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal session-timeout *minutes*

terminal no session-timeout

構文の説明	<i>minutes</i>	分単位での時間。有効な範囲は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。端末無活動タイムアウトをディセーブルにするには、0 を指定します。
コマンド デフォルト		ターミナル セッション タイムアウトはディセーブルです (0 分)。
コマンド モード		EXEC モード
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
使用上のガイドライン		ターミナル セッション無活動タイムアウトの設定は、現在のセッションだけに適用されます。
例		次に、セッションの端末無活動タイムアウトを 10 分に設定する例を示します。 switch# terminal session-timeout 10
		次に、セッションのデフォルトの端末無活動タイムアウトに戻す例を示します。 switch# terminal no session-timeout
関連コマンド	コマンド	説明
	show terminal	ターミナルセッションの設定を表示します。

terminal terminal-type

現在のセッションの端末タイプを設定するには、**terminal terminal-type** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal terminal-type *type*

terminal no terminal-type

構文の説明

<i>type</i>	端末のタイプ。タイプ文字列は、最大 80 文字の長さで、大文字と小文字が区別されます。また、有効なタイプ (ansi、vt100、または xterm など) である必要があります。
-------------	--

コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に端末タイプが設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は vt100 です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

端末タイプの設定は、現在のセッションだけに適用されます。

例

次に、端末タイプを設定する例を示します。

```
switch# terminal terminal-type xterm
```

次に、デフォルトの端末タイプに戻す例を示します。

```
switch# terminal no terminal-type
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	ターミナル セッションの設定を表示します。

terminal width

セッションの現在の行を表示する端末画面上の文字の列数を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

terminal width columns

terminal no width

構文の説明

columns 列の数。有効な範囲は 24 ~ 511 です。

コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に列の数が設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は 80 列です。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

端末の列数の設定は、現在のセッションだけに適用されます。

例

次に、端末に表示する列の数を設定する例を示します。

```
switch# terminal width 70
```

次に、デフォルトの列数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no width
```

関連コマンド

コマンド	説明
show terminal	ターミナルセッションの設定を表示します。

traceroute

IP アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source
src-addr]
```

構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IP アドレス。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意) 管理 VRF を指定します。
source <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IP アドレスを指定します。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ネットワーク デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute 192.168.255.18 vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を表示します。
traceroute6	IPv6 アドレスを使用してデバイスへのルートを調べます。

tracert6

IPv6 アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**tracert6** コマンドを使用します。

```
tracert6 {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレス。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
vrf <i>vrf-name</i>	(任意) Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
default	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
management	(任意) 管理 VRF を指定します。
source <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IPv6 アドレスを指定します。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1a)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# tracert6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
tracert	IPv4 アドレスを使用してデバイスへのルートを調べます。

update license

既存のライセンスを更新するには、**update license** コマンドを使用します。

```
update license [filesystem: [//server/]] [directory] src-filename [target-filename]
```

構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 bootflash または volatile です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 /// 、 //module-1/ 、 //sup-1/ 、 //sup-active/ または //sup-local/ です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前。
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲット ライセンス ファイルの名前。



(注)

filesystem://server/directory/filename スtringにはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

例

次に、ライセンスを更新する例を示します。

```
switch# update license bootflash:fm.lic fm-update.lic
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license	ライセンス情報を表示します。

write erase

固定メモリ領域内の設定を消去するには、**write erase** コマンドを使用します。

write erase [boot | debug]

構文の説明

boot	(任意) ブート設定だけを消去します。
debug	(任意) デバッグ設定だけを消去します。

コマンド デフォルト

固定メモリ内のすべての設定を消去します。

コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

情報が破損しているなどの理由で使用できない場合は、このコマンドを使用して、固定メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションを消去できます。スタートアップ コンフィギュレーションを消去すると、スイッチが初期状態に戻ります。

例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションを消去する例を示します。

```
switch# write erase
```

次に、固定メモリ内のデバッグ設定を消去する例を示します。

```
switch# write erase debug
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
show running-config	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。